KENWOOD

コンパクトハイファイコンポーネントシステム

NDL-100

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また､取扱説明書は大切に保管して､必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

お客様の安全のため､必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

©B60-5662-00/00 (J) BT

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用前には必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

⚠警告

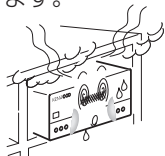
交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

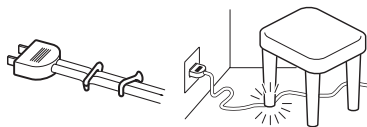
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。
  通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

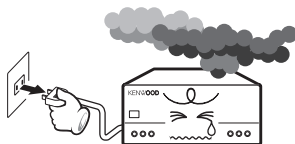
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

⚠警告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

きれいにしましょう

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

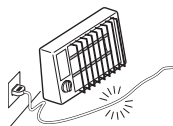
電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

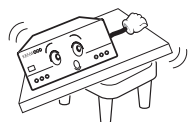
機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

⚠注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

⚠注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

レーザー光線をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手がはさまれて、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

⚠注意

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"−"の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。
液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

こんなことができます

PC（パソコン）で

PCを接続して音楽ファイルを再生します。
操作はPC内の音楽再生ソフトで行います。
（PCへの録音はできません）

P.28

USBフラッシュメモリや USBオーディオプレーヤーを使って

USBフラッシュメモリやUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤーを接続して、USB内のMP3ファイルを再生します。本機のリモコンから操作できます。（USBフラッシュメモリやUSBオーディオプレーヤーには録音できません）

P.30

CDで

CDをいろいろな方法で再生します。

FM/AMラジオで

FM/AMラジオの放送局をセットして放送を聞きます。

外部入力で

本機に外部機器をAUX接続して曲を再生することができます。

デジタルオーディオプレーヤーを使って

ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを接続して再生、録音します。

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

もくじ

お使いになる前に

必ずお読みください

音源別操作編

音源別に接続や操作の方法がわかります

- PC（パソコン）
- USB
- CD
- FM/AMラジオ
- AUX
- D.AUDIO

P.27

音質設定編

いい音で聞く方法がわかります

- D-BASS（低音強調）
- イコライザー
- サウンドプリセット

P.53

機器設定編

本機の各種設定方法がわかります

- タイマー設定
- ディスプレイ設定
- 時刻設定
- オートパワーセーブ
- 録音レベルの調整

P.63

保守編

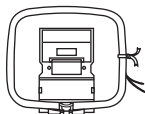
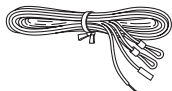
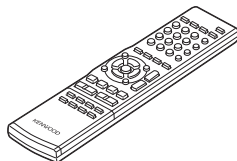
長くお使いいただくために

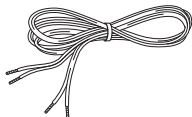
- メッセージ表示一覧
- 故障かな？と思ったら
- 用語集
- 保管とお手入れ
- 保障とアフターサービス
- ケンウッド全国サービス網
- 定格

P.73

付属品・関連商品

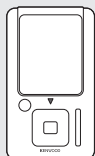
付属品がそろっていることを確認してください

AM ループアンテナ
（1個）

FM室内アンテナ
（1本）

リモコン
（RC-F0319：1個）

リモコン用乾電池
（単4形：2本）

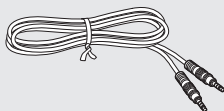
スピーカーコード
（2m：2本）

クッション
（4個）

関連商品（別売）

（2006年12月現在）

D.AUDIO IN端子へ
接続して再生できます

ケンウッド製デジタル
オーディオプレーヤー

HD20GA7、HD30GA9
HD30GB9、HD10GB7
M1GB5、M512B5
M2GC7、M1GC7、
M512C5

接続したケンウッド製
デジタルオーディオプ
レーヤーを本機で操作
できます

ケンウッド製デジタル
オーディオプレーヤー
専用ケーブル PNC-150

設置するときは

本機を設置するときは、下記のように設置してください

設置方法

● 設置する場所は必ず平らで安定した場所に置いてください。台などの上に置く場合は、必ず台の強度を確認してから置いてください。

● スピーカーの磁気により、テレビやパソコンの画面に色ムラが発生することがあります。テレビやパソコンから少し離して置いてください。

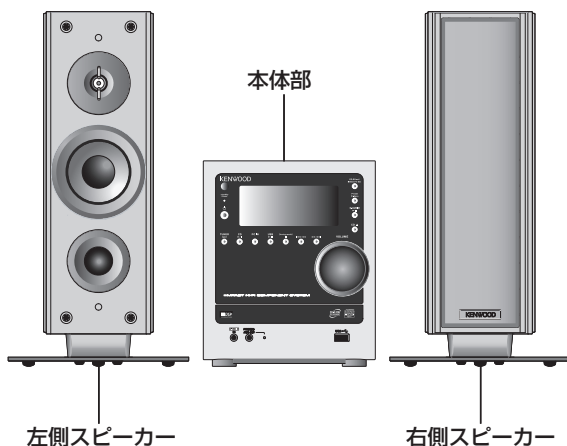
⚠ 注意

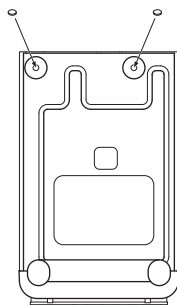
機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

● 機器の上面に、放熱の妨げになるものを置かないでください。

● 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。

上面：50cm以上　背面：10cm以上

機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

付属のクッションについて

設置場所によってはすべりやすい場合があります。そのときは、図のように付属のすべり止めクッションを貼ってご使用ください。（2個は予備です。なくさないように保管しておいてください。）

①きれいな布などで貼り付ける面（底面後ろ側の脚2箇所）のほこり、汚れをふきとる。

②クッションを台紙からはがし貼り付ける。

前面パネル

よりよい音響効果を楽しんでいただくために

スピーカーの置き方によって音は変化します。よりよい音質をお楽しみいただくために下記を参考にしてください。

● 左右のスピーカーの周囲の環境をできるだけ同じにする。また、音の反射をできるだけ少なくする。（例えば、スピーカーを左右とも壁から離し、ガラス窓などには厚手のカーテンなどを掛ける。）

● 左右のスピーカーの間隔を広げる。

● 鑑賞時の耳の位置と同じ高さに設置する。

接続のしかた

本機と付属品の接続

すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

接続上のご注意

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜いてください。

マイコンの誤作動について

正しく接続したのに正常に動作しない場合や、ディスプレイが誤った表示をする場合はP.78参照。

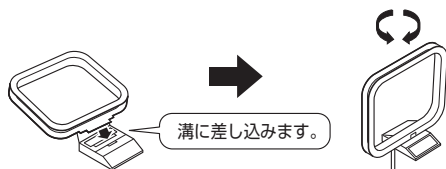
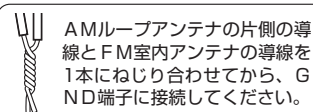
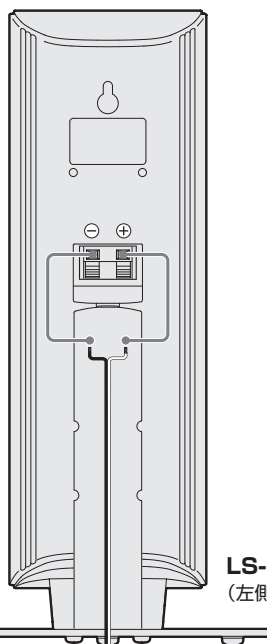
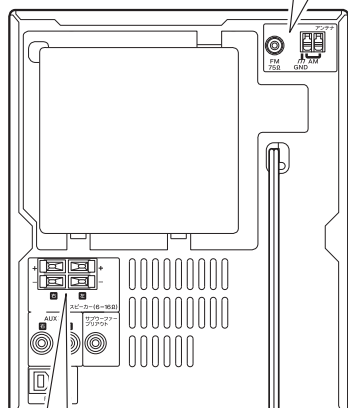
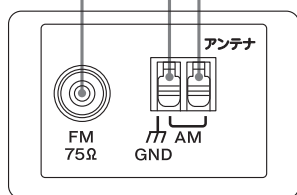
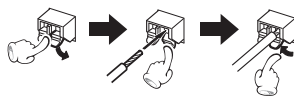
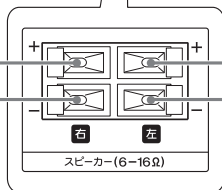
FM室内アンテナ

付属のアンテナは室内用の簡易アンテナで、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ（市販）の接続をお勧めします。屋外アンテナを接続した後は、簡易アンテナは取り外してください。

①アンテナ端子に接続する。
②受信状態のよい位置をさがす。
③固定する。

スピーカーコード接続の注意

スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。

極性＋と－を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりしない不自然な音になります。

溝に差し込みます。
AMループアンテナ
付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。
AMループアンテナの片側の導線とFM室内アンテナの導線を1本にねじり合わせてから、GND端子に接続してください。
本体へのアンテナコードの取り付け方
アンテナ
FM
75Ω
AM
GND
スピーカー(6−16Ω)
AUX
サブウーファープリアウト
右
左
LS-NDL200
(左側スピーカー)
+ 透明に白のライン
−
電源コード
AC100V、50/60Hzの電源コンセントへ
電源コード
電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

接続のしかた

他の機器（市販品）との接続

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

接続上のご注意

- 「FM屋外アンテナ」「サブウーファープリアウト端子」「AUX入力端子」は接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
  接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 接続は必ずスタンバイ状態時に行い、接続が終了するまで電源をONにしないでください。
  接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず電源をOFFにしてから抜いてください。

D.AUDIO IN端子

ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを接続します。
専用ケーブル PNC-150 で接続すると、本機やリモコンで操作できます。（P.48参照）

対応プレーヤー

HD20GA7/HD30GA9/
HD30GB9/M1GB5

※USB充電機能付きデジタルオーディオプレーヤー再生・録音中は、PCとの接続はしないでください。

PHONES端子

ステレオミニプラグのヘッドホン（別売）を接続します。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。
夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

REC OUT端子

プレーヤーに付属（または市販品）の録音用ケーブルでケンウッド製ダイレクトエンコード機能付きデジタルオーディオプレーヤーM1GB5/M512B5/M2GC7/M1GC7を接続します。
REC OUT端子からはアナログ信号が出力されます。

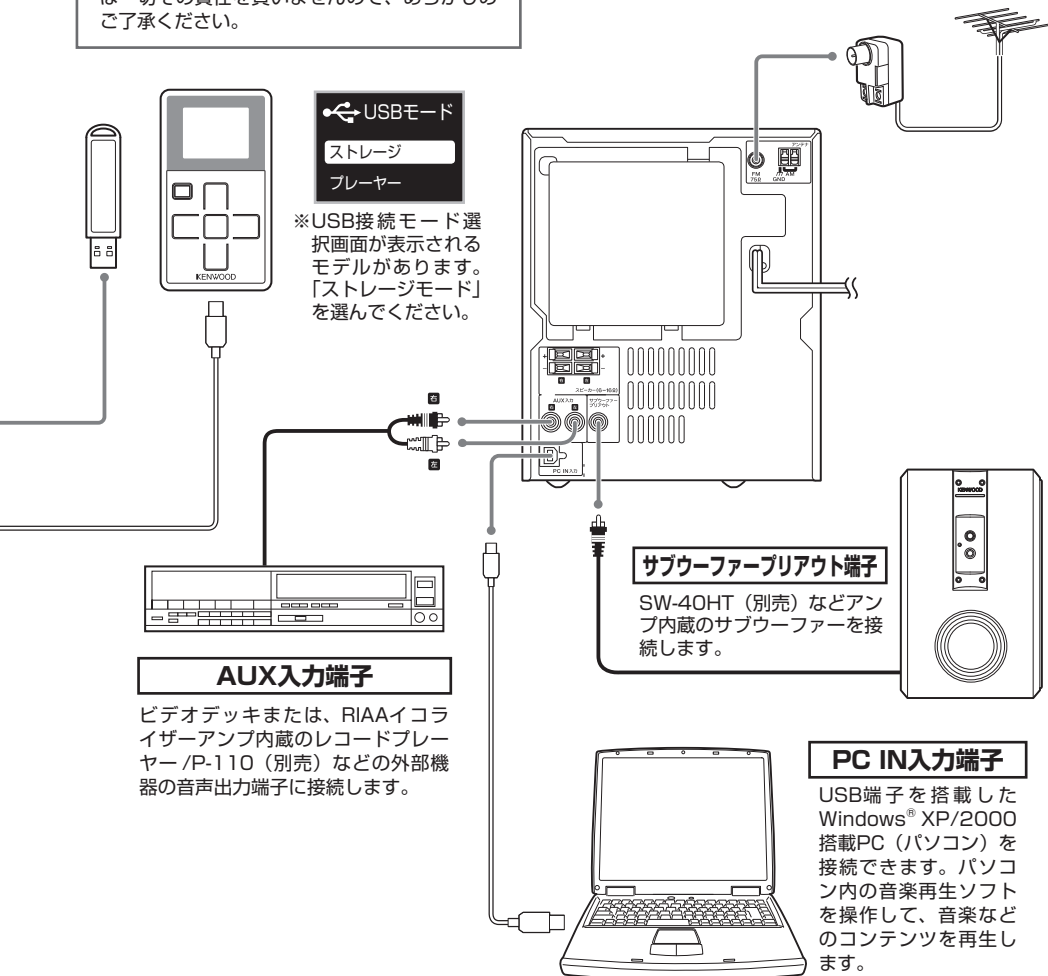
※USB充電機能付きデジタルオーディオプレーヤー再生・録音中は、PCとの接続はしないでください。

USB端子

USBフラッシュメモリやUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤーを接続します。

※機器によっては、認識されるまでに時間がかかることがあります。

USB端子接続のご注意

USB端子には、USBフラッシュメモリやUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤー以外の機器を接続しないでください。万一、他の機器を接続して発生した故障や破損、データの損失などにつきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

FM屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引込み、FM75Ω端子に接続します。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

⚠ 屋外アンテナの設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因になることがあります。

※USB接続モード選択画面が表示されるモデルがあります。「ストレージモード」を選んでください。

サブウーファープリアウト端子

SW-40HT（別売）などアンプ内蔵のサブウーファーを接続します。

AUX入力端子

ビデオデッキまたは、RIAAイコライザーアンプ内蔵のレコードプレーヤー /P-110（別売）などの外部機器の音声出力端子に接続します。

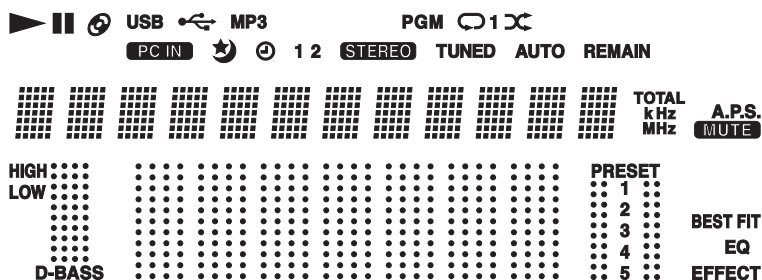
PC IN入力端子

USB端子を搭載したWindows® XP/2000搭載PC（パソコン）を接続できます。パソコン内の音楽再生ソフトを操作して、音楽などのコンテンツを再生します。

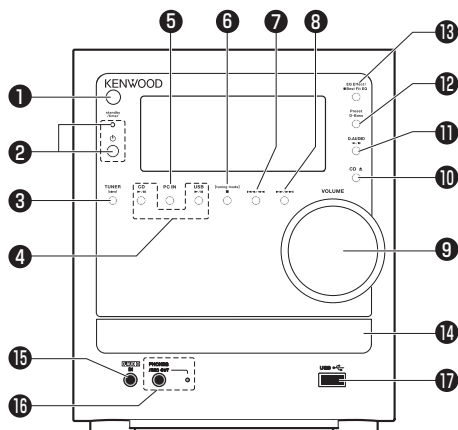
各部のなまえと働き

ディスプレイ部

本文中のディスプレイ表示は、
実際の表示と異なる場合もあります。

USB MP3 PGM 1
PC IN 1 2 STEREO TUNED AUTO REMAIN
TOTAL kHz MHz A.P.S. MUTE
HIGH LOW D-BASS PRESET 1 2 3 4 5 BEST FIT EQ EFFECT

表示	説明
▶	CD、USB再生中に点灯します。
❚❚	CD、USBが一時停止中に点灯します。
USB	音源がUSB、PCのとき、音を検出すると点灯します。
PC IN	音源がPCのときに点灯します。（P.28）
（USBマーク）	PCと接続されると点灯します。（P.28）
（おやすみタイマーマーク）	おやすみタイマーを設定すると点灯します。（P.64）
MP3	音源がUSBのとき、MP3ファイルを検出すると点灯します。（P.30）
（時計マーク） 1 2	プログラムタイマー設定中に点滅し、設定後点灯します。（P.65）
STEREO	FMのステレオ放送受信時に点灯します。（P.41）
PGM	音源がCDのときに、プログラムモードにすると点灯します。（P.36）
（リピートマーク）1	音源がCDのときにリピートモードにすると点灯します。「1」があるときは1曲リピート、ないときは全曲リピートです。（P.39）

表示	説明
（ランダムマーク）	音源がCDのときランダム再生中に点灯します。（P.38）
TUNED	音源がラジオのとき、放送を受信すると点灯します。（P.40）
AUTO	ラジオの選局方法がAUTOのときに点灯します。（P.41）
REMAIN	音源がCDのとき、残り時間表示を選んでいる場合に点灯します。（P.35）
TOTAL	音源がCDのとき、トータル時間表示を選ぶと点灯します。（P.35）
A.P.S.	オートパワーセーブ設定中に点滅し、設定後点灯します。（P.71）
MUTE	ミュート（消音）がオンのとき点滅します。（P.22）
BEST FIT	BEST FIT EQ設定中に点滅し、設定後点灯します。（P.57）
EQ	EQ EFFECT、BEST FIT EQ、MANUAL EQ設定中に点滅し、どれか選ぶと点灯します。（P.56～P.58）
EFFECT	EQ EFFECT設定中に点滅し、設定後は点灯します。（P.56）

本体部

❶ リモコン受光部（P.19）

❷ 電源（P.23）
電源のオン／オフ（スタンバイ状態）を切り換えます。
スタンバイ・タイマーインジケーター
電源がスタンバイ状態になると点灯します。
赤色：通常のスタンバイ状態
オレンジ色：タイマースタンバイ状態

❸ TUNER/band（P.40）
音源をFM、AMに切り換えます。

❹ 再生/一時停止（P.23）
各音源に切り換え、再生、一時停止します。

❺ PC IN（P.28）
音源をPCに切り換えます。

❻ ■/tuning mode
・再生を停止します。
・ラジオ選択時はオート選局とマニュアル選局を切り換えます。（P.41）
・スタンバイ状態のとき時刻を5秒間表示します。（P.70）

❼ I◀◀/◀◀
・早戻し、スキップダウンします。
・ラジオ選択時は放送局を選びます。（P.41）

❽ ▶▶/▶▶I
・早送り、スキップアップします。
・ラジオ選択時は放送局を選びます。（P.41）

❾ VOLUME（P.22）
音量を調節します。

❿ CD 開閉（P.23）
CDトレイを開閉します。

⓫ D.AUDIO（P.48）
D.AUDIOに切り換え、再生、一時停止します。

⓬ Preset D-Bass（P.54）
プリセットD-BASSを4種類から選びます。

⓭ EQ Effect/Best Fit EQ
・短押しでプリセットEQを設定します。（P.56）
・長押しでCDをサンプリングして自動でイコライザーを設定します。（P.57）

⓮ CDトレイ
CDを入れます。

⓯ D.AUDIO IN端子（P.48）
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを接続します。

⓰ PHONES/REC OUT端子（P.51）
・ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを接続してアナログ録音します。
・ステレオミニプラグのヘッドホン（別売）を接続します。
REC OUTインジケーター
REC OUTモードになると赤く点灯します。

⓱ USB端子（P.15）
USBフラッシュメモリやUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤーを接続します。

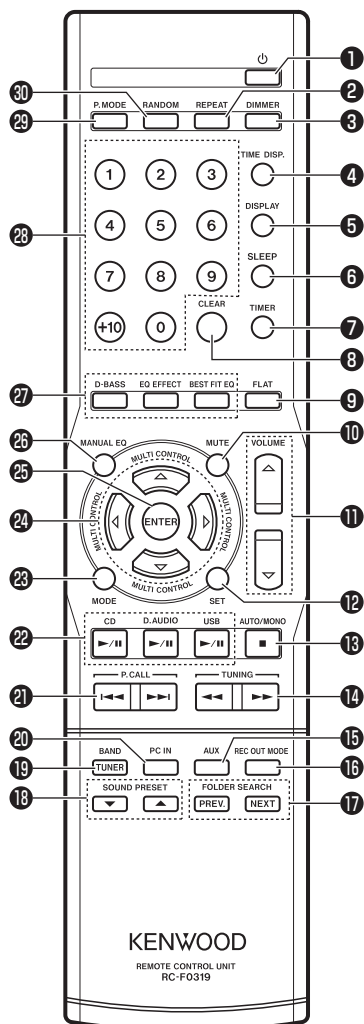
スタンバイ状態について

本機のスタンバイ・タイマーインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電が行われています。これをスタンバイ状態といいます。またこの状態のとき、リモコンで本機の電源をONにできます。

ワンタッチオペレーション機能について

本機は便利なワンタッチオペレーション機能を備えています。スタンバイ状態のとき、❹内の各操作キーを押すと本機の電源がオンになります。ディスクが入っているときは再生が始まります。

リモコンキーの使い方

本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

❶ 電源（P.23）
電源のオン/オフ（スタンバイ状態）を切り換えます。

❷ REPEAT（P.39）
繰り返し再生します。

❸ DIMMER（P.68）
ディスプレイの明るさを調整します。

❹ TIME DISP.（P.35）
・時間表示を切り換えます。

❺ DISPLAY（P.31）
・タイトルや放送局名、時間をディスプレイに表示させます。

❻ SLEEP（P.64）
おやすみタイマーを設定します。

❼ TIMER（P.67）
タイマーのON/OFFを切り換えます。

❽ CLEAR
・プログラム再生モードで選んだ曲を消します。（P.37）
・プリセットしてある放送局を消します。（P.45）

❾ FLAT（P.54 ～ 60）
D-BASS、MANUAL EQの設定を一時的に無効にします。

❿ MUTE（P.22）
一時的に消音します。

⓫ VOLUME（P.22）
音量を調節します。上を押すと音量が上がり、下を押すと音量が下がります。

⓬ SET（P.36 ～）
各種設定時に選択内容を確定します。

⓭ ■ [AUTO/MONO]
・再生を停止します。
・ラジオ選択時はオート選局とマニュアル選局を切り換えます。（P.41）
・スタンバイ状態時は時刻を5秒間表示します。（P.70）

⓮ TUNING
・曲を早送り、早戻しします。（P.35）
・ラジオ選択時は放送局を選びます。（P.41）

⓯ AUX（P.46）
音源をAUXに切り換えます。

⓰ REC OUT MODE（P.52）
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーに録音するときに使用します。

⑰ FOLDER SEARCH（P.31、49）
D.AUDIO、USBのフォルダを選びます。

⑱ SOUND PRESET（P.62）
サウンドプリセット（設定されているサウンド効果）を選びます。

⑲ BAND/TUNER（P.40）
音源をFM、AMに切り換えます。

⑳ PC IN（P.28）
音源をPCに切り換えます。

㉑ P.CALL
・曲を飛ばします。
・ラジオ選択時は放送局を選びます。（P.40）

㉒ 再生/一時停止（P.23）
各音源に切り換え、再生、一時停止します。

㉓ MODE（P.42 ～）
本機の各種設定をする場合に使います。

㉔ MULTI CONTROL（P.42 ～）
項目を選択します。

㉕ ENTER（P.42 ～）
各種設定時に選択内容を確定します。

㉖ MANUAL EQ（P.58）
MANUAL EQの設定をします。

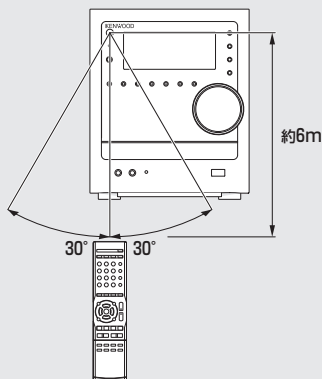
㉗ 音質設定（P.55 ～ 57）
D-BASS、EQ EFFECT、BEST FIT EQの設定をします。

㉘ 数字（P.35 ～）
曲、放送局を選びます。

㉙ P.MODE（P.36）
再生モード（通常再生モード、プログラム再生モード）を切り換えます。

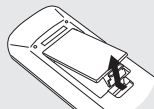
㉚ RANDOM（P.38）
順不同に再生します。

操作のしかた

本体の電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの電源キーを押すと、電源がONになります。電源がONになったら、操作したいキーを押します。

● リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式等）の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

リモコンの電池の入れ方

電池が切れたときは市販の単4形電池を使用します。

① 電池カバーを外します。

② 新しい単4形電池と交換します。

※電池の極性に注意して入れてください。

③ 電池カバーを閉じます。

● 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。

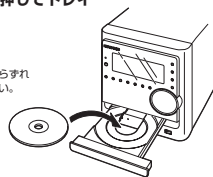
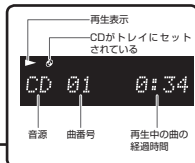
本書の見方

操作手順です。

本機ではリモコンと本体で操作できる機能もありますが、本書では主としてリモコンによる操作手順を表記しています。本体でしか行えない操作については、「本体の○○を押して」と表記しています。

操作する前に必要な知識と準備です。

※準備をしておかないと正しく操作できない場合があります。

操作で使うリモコンのキーです。

※表記していないページもあります。

操作中または操作後のディスプレイ表示です。

※この取扱説明書のディスプレイ表示は操作説明のために作成したものです。実際のディスプレイ表示とは異なる場合があります。

上記操作に関連した項目や操作です。

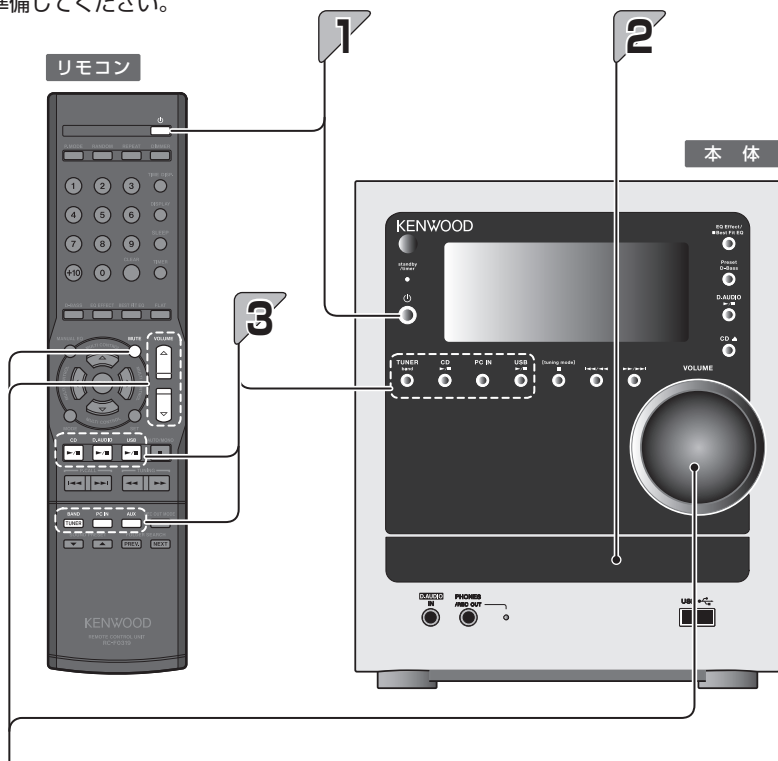
操作の対象になる音源です。
PC
PCです。
USB
USB端子に接続したUSBフラッシュメモリやUSBオーディオプレーヤーです。
TUNER
ラジオです。
CD
CDです。
D.AUDIO
D.AUDIO IN端子に接続したケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーです。
AUX
AUX入力端子に接続した外部機器です。
さらに便利に使うための関連機能です。
関連情報
●再生できるディスクについて→P.24
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定（いい音で聞く方法）→P.53 ～
【CD再生中のリモコン操作】
ランダム再生する
[RANDOM]キーを押すごとに、ランダム再生と解除が切り換わる。
リピート再生
[REPEAT]キーを押すごとに、1曲リピート→全曲リピート→リピート解除が切り換わる。
時間表示を切り換える
[TIME DISP.]キーを押すごとにディスプレイ表示が、1曲の経過時間→1曲の残り時間→トータルの経過時間→トータルの残り時間が切り換わる。
※プログラムモード(P.36)も同様です。1曲リピート(P.39)、ランダムモード（P.38）では、1曲の経過時間→1曲の残り時間で切り換わる。
曲番号を指定する
5曲目なら 5 を押す。
17曲目なら +10、7 を押す。
一時停止と再開
[CD]キーを押す。
停止する
AUTO/MONO
■ キーを押す。
早送り / 早戻しをする
再生中に ◄◄ / ►► キーを押し続ける。
曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る
曲を飛ばす→ ►►I キーを押す。
前の曲へ戻る→ I◄◄ キーを連続して2回以上押す。
曲の初めに戻る→ I◄◄ キーを1回押す。
KENWOOD
CD
音質設定編
機器設定編
保守編
音源別リモコンキーの機能一覧です。
CDを再生する 35

基本的な使い方

準備

適切な場所に本機を設置してください。
（P.11参照）

接続を確認してください。
（P.12 ～ 15参照）

リモコンを準備してください。
（P.19参照）

音量を調整する

リモコン

VOLUME

音量を上げる

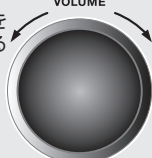
音量を下げる

本　体

VOLUME

音量を下げる　音量を上げる

40段階で調整できます。

※リモコンのキーを押し続ける、または本体のつまみを速く回すと、音量が早く切り替わります。

一時的に消音する（ミュート）

リモコン

MUTE

[MUTE]キーを押す

■ ミュートを解除するには

もう一度**[MUTE]**キーを押す。

1 電源をオンにする（オフにする）

リモコン　本　体

電源キーを押す

※各音源の再生/一時停止キーを押しても、電源がオンになります。

※電源がオンのときに電源キーを押すとオフ（スタンバイ状態）になります。

2 ディスクを入れる

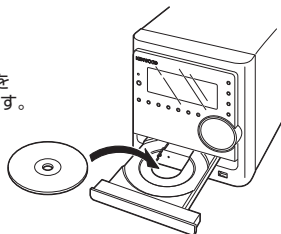
❶ トレイを開けます。

本　体

CD ⏏

[CD 開閉]キーを押す

❷ CDを入れます。

CDはラベル面を上にして入れます。

❸ トレイを閉めます。

本　体

CD ⏏

[CD 開閉]キーを押す

3 再生する

各音源の再生/一時停止キーを押します。

リモコン

本　体

PC IN　USB　CD　TUNER band　D.AUDIO

※詳しくは「音源別操作編」の各音源ごとの再生ページをご覧ください。

知っておいていただきたいこと

本機で使えるメディア

メディア		本書でのマーク	説　明
ＰＣ	USB端子を搭載した Windows XP/2000		● PC IN端子には、Windows XP/2000搭載パソコンをUSBケーブルで接続します。
USB	USBフラッシュメモリ USBマスストレージクラス対応 デジタルオーディオプレーヤー		● USB端子には、USBフラッシュメモリやUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤー以外の機器を接続しないでください。万一、他の機器を接続して発生した故障や破損、データの損失などについては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。使用可能なUSBマスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤーの情報は当社ホームページをご覧ください。 http://www.kenwood.co.jp/faq/
ＣＤ	市販の音楽CD CD-DAのフォーマットで記録したCD-R/CD-RW		● コピーコントロール付きCDなど、CD規格外ディスクの再生は保証しておりません。 ● CD-DAのフォーマットで記録し、記録終了時にファイナライズしたCD-RとCD-RWが再生できます。 ● CD-R/RWディスクを録音した機器や録音状態、また使用しているCD-R/RWの種類によっては本機で再生できない場合があります。

このシンボルマークはケンウッドにおいて環境に対する影響を軽減した商品であることをお知らせするマークです。

メモリバックアップについて

電源プラグをコンセントから抜いても各種設定は約1日間保持されます。保持される内容は以下の設定です。

- ●音源切り換え
- ●音量の設定
- ●入力レベルの設定
- ●BEST FIT EQ、サウンドプリセットの設定内容
- ●プログラムタイマーの設定内容
- ●オートパワーセーブの設定
- ●イルミネーションの設定

チューナー関係

- ● プリセット放送局
- ● 選局方法の設定（オート、マニュアル選局）
- ● 受信バンド
- ● 周波数

USB機器の取り扱い

取り扱い上のお願い

・必ず各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
・本機にUSB機器は付属していません。別途、市販品を購入してください。
・本機前面のUSB端子はUSB2.0（Full speed）対応です。
・USBハブを介してUSB機器を使用することはできません。
・USB機器の使用状況によっては、保存してある内容が失われる場合があります。保存してある内容が失われたことによる損害については、当社は一切その責任を負いませんので、ご了承ください。

再生について

本機で再生できるのはMP3形式です。
MP3 ：ビットレート…………32 ～ 320kbps
サンプリング周波数…32kHz、44.1kHz、48kHz

使用できるUSB機器について

使用できるUSB機器の種類や使用方法には以下のような制限があります。

● USBマスストレージクラス対応であること。
使用するUSB機器がUSBマスストレージクラスに対応しているかどうかは、販売店にお問い合わせください。

● 最大消費電流が「500mA」以下であること。
上記以外のUSB機器を使用すると、曲ファイルが正常に再生できない場合があります。また上記規格に準拠したUSB機器でも、種類や状態によっては正常に再生できない場合があります。

輸送時または移動時のご注意

本機を輸送または、移動する場合は下記の操作を行ってください。

① USBフラッシュメモリやUSBオーディオプレーヤーを外します。CDを取り出します。

② CDの再生/一時停止キーを押し、 [NO DISC]がディスプレイに表示されるのを確認します。

③ 数秒間待ち、電源をOFFにします。

④ その他外部機器が接続されている場合は、電源がOFFになっていることを確認してからケーブルを抜いてください。

知っておいていただきたいこと

CDの取り扱い

取り扱い上のお願い

再生面にふれないように持ってください。

本機で使用できるディスクについて

CD（12cm、8cm）、CD-R、CD-RW、CD-EXTRAの音声部分が再生できます。

CD-R/CD-RWディスクについて

レーベル面に印刷可能なCD-R、CD-RWを使用すると、レーベル面が貼り付いてディスクの取り出しができないことがあります。本機の故障の原因となるため、このようなディスクは使用しないでください。

CDディスクのご注意

COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが入ったディスクをご使用ください。

このマークが入っていないディスクは正しく再生できない場合があります。

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。
円形以外の形をしたディスクは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

著作権について

あなたが録音、録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先：
社団法人私的録音補償金管理協会（sarah）

東京都千代田区麹町1-8-14麹町YKビル2F
電話（03）3261-3444

- 放送やCD、レコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- 従って、それらから録音したものを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他の手続きについては「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお尋ねください。

音源別操作編

音源別に接続や操作の方法がわかります。
音源にかかわらない音質の設定や機器の設定については、
「音質設定編」「機器設定編」をご覧ください。
エラーが表示されたり、困ったことが起きた場合には、
「保守編」をご覧ください。

PC（パソコン）

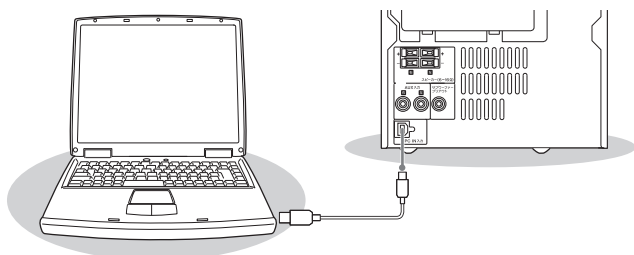
パソコンを接続して、曲やインターネットラジオ
放送などのコンテンツを聞くことができます。

パソコンを接続してコンテンツを聞く

パソコンを本機に USB ケーブル（市販品）で接続し、パソコン内のソフトウェアを操作して曲やラジオ放送などのコンテンツを聞くことができます。

※本機とパソコンを接続するUSBケーブル（Type A - Type B）を準備します。

本体裏面の[PC IN入力端子]とパソコンのUSBポートを、USBケーブルで接続する

※本機とパソコンを接続する場合は
電源をオフにしておきます。

パソコンの電源をオンにする

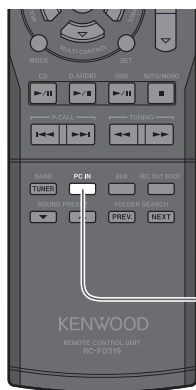
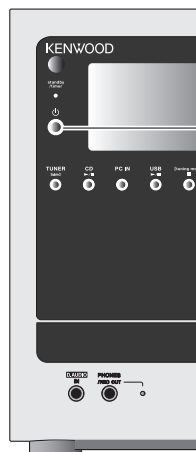
本体の電源をオンにする

パソコンへドライバが自動的にインストールされ、
本機は「USBスピーカー」として認識されます。

※パソコンが本機を接続検出中の状態では、USB
ケーブルを抜き差ししないでください。

※数秒間経過しても本機が検出されない場合は、次のことを行ってください。
・USBケーブルを接続しなおす
・パソコンを再起動する

4 [PC IN]キーを押す

関連情報
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定（いい音で聞く方法）→P.53 ～

5 パソコンのソフトウェアを操作してコンテンツを聞く

※コンテンツはパソコンで選びます。パソコンで行う操作については、パソコンまたはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

※本機で音量調節ができます。

パソコンから入力中は、「USB」が表示されます。

※本機は48kHz/44.1kHz/32kHz周波数に対応しています。また、16ビットステレオ/モノラルデータを受信できます。

※本機のPC IN入力端子は入力専用です。本機で再生される音をパソコンに録音することはできません。

※音が出ないとき、音量が非常に小さいときは、次の手順でWindowsの設定を確認してください。

Windows XPの場合

スタートメニューから、[コントロールパネル]を選び、[サウンドとオーディオデバイス]をダブルクリックします。

・[オーディオ]タブをクリックし「USBスピーカー」を選びます。

・下の[音量]をクリックして、音量を調節してください。「ミュート」のチェックボックスにチェックがある場合は、解除します。

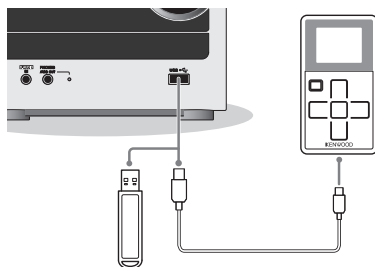
USB

USB フラッシュメモリや USB マスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤーを USB 接続して、内部の MP3 ファイルを再生します。

USBフラッシュメモリや USBデジタルオーディオプレーヤーを接続して再生する

USB フラッシュメモリや USB マスストレージクラスに対応したデジタルオーディオプレイヤーの MP3 ファイルを再生します。

※USBマスストレージクラス：パソコンにUSB機器を接続するための規格。
※接続する外部機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
※再生できるデータ形式については、「USB機器の取り扱い」をP.25をご覧ください。

1 [USB端子]にUSBフラッシュメモリまたは、USBオーディオプレーヤーのUSBケーブルを接続する

2 [USB]キーを押す

機器の中のMP3ファイルを検索し、再生を始めます。

※複数のフォルダや曲ファイルがある場合の再生の順番については、P.32をご覧ください。

※機器に再生可能なMP3ファイルがないときは、再生は始まりません。

※接続されている機器や記録されているファイル数などによって、読み込みに時間がかかり再生が始まらない場合があります。F001 T001 表示後に、再度**[USB]**キーを押してください。

※USB接続モード選択画面が表示されるモデルがあります。「ストレージモード」を選び、再度**[USB]**キーを押してください。

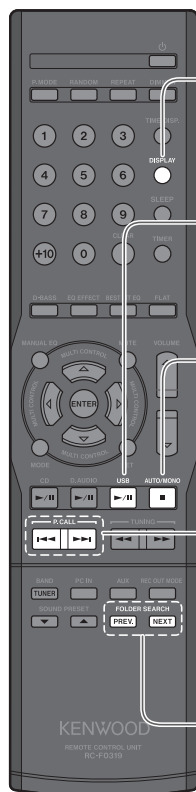
■再生を停止するには

AUTO/MONO

 キーを押す。

Point ※定格以上の電流を消費するUSB機器を接続すると「USB ERROR」と表示されます。本機では使用できません。
本機の電源をオフにしてから、そのUSB機器を抜いてください。

●再生できるデータ形式について→P.25
●フォルダや曲ファイルの再生順について→P.32
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定（いい音で聞く方法）→P.53～

【USB再生中のリモコン操作】

表示を切り換える

[DISPLAY]キーを押すごとに、ファイル番号 / 再生時間→フォルダ番号 / ファイル番号が切り換わる。

一時停止 / 再開する

[USB]キーを押すと一時停止、
もう一度押すと再開する。

停止する

AUTO/MONO
[■] キーを押す。

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る

曲を飛ばす→ [►►I] キーを押す。

前の曲へ戻る→ [I◄◄] キーを押す。

前のフォルダ/ 次のフォルダの曲を再生する

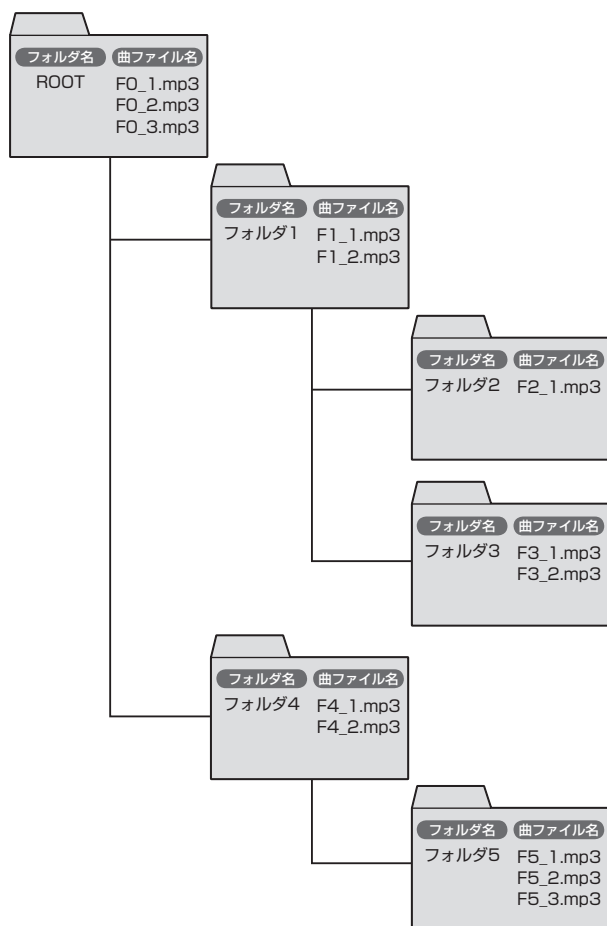
前のフォルダへは**[PREV.]**キーを押す。
次のフォルダへは**[NEXT]**キーを押す。

※最初のフォルダから**[PREV.]**キーは使えません。また、最初のフォルダの最初の曲ファイルから [I◄◄] キーは使えません。

※デジタルHDDオーディオプレーヤーを接続した場合は、HDDのシステム上、一時停止から再生開始した際に音切れが発生する場合があります。

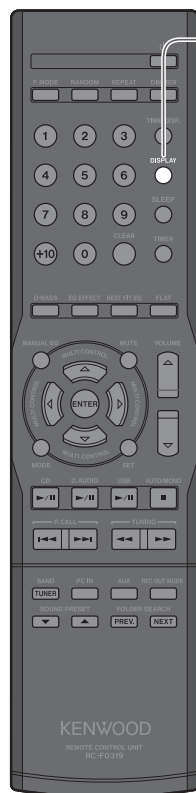
※音源がUSB以外の場合はデジタルオーディオプレーヤーを充電することはできません。

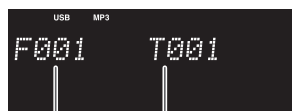
【フォルダや曲ファイルの再生順について】

USBフラッシュメモリやUSBオーディオプレーヤー内の曲ファイルは、まず、Rootにあるものから再生されます。次の図は、本機がフォルダや曲ファイルを選択する順番を表したものです。

■曲ファイル再生順

1曲目 ......F0_1.mp3
2曲目 ......F0_2.mp3
3曲目 ......F0_3.mp3
4曲目 ......F1_1.mp3
5曲目 ......F1_2.mp3
6曲目 ......F2_1.mp3
7曲目 ......F3_1.mp3
8曲目 ......F3_2.mp3
9曲目 ......F4_1.mp3
10曲目 ......F4_2.mp3
11曲目 ......F5_1.mp3
12曲目 ......F5_2.mp3
13曲目 ......F5_3.mp3

【再生中のディスプレイ表示について】

USBフラッシュメモリやUSBオーディオプレーヤーを接続してUSBを音源として選択し、MP3ファイルを再生中には、ディスプレイには次のように表示されます。

■[DISPLAY]を押すごとに切り換わります。

再生中のフォルダ内の曲ファイル番号。
フォルダが変わったときにはフォルダ「F×××」番号が表示される。USB機器認識中や接続されていない場合は「USB」と表示。

USB

音質設定編

機器設定編

保守編

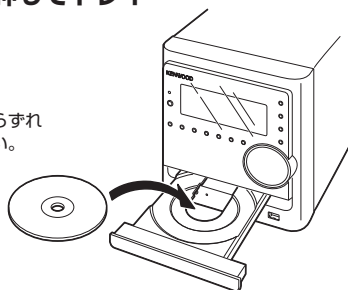
CD を再生します。通常の再生のほか、プログラム再生、
ランダム再生、リピート再生ができます。

CDを再生する

CD をセットして再生します。

●あらかじめディスクが入っている場合は、CD [►/II] キーを押すだけで電源がオンになり、再生が始まります。

1 本体の[CD ⏏]キーを押してトレイを開き、CDを入れる

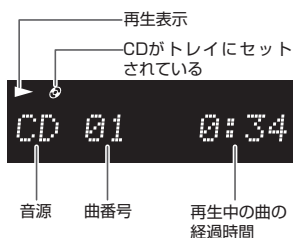
※ラベル面を上にしてトレイからずれないようにして入れてください。

2 本体の[CD ⏏]キーを押してトレイを閉じる

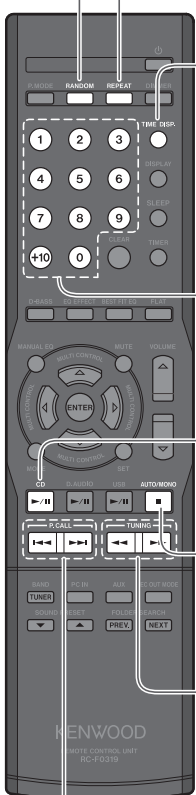
3 [CD]キーを押す

再生表示

CDがトレイにセットされている

CD 01 0:34

音源 曲番号 再生中の曲の経過時間

CD-TEXT対応のディスクでは、曲名やアルバム名などの文字情報が表示されます。英数字のみ対応しています。それ以外の文字はスペース（空白）になります。

■再生を停止するには

AUTO/MONO [■] キーを押す。

●再生できるディスクについて→P.24
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定（いい音で聞く方法）→P.53 ～

【CD再生中のリモコン操作】

ランダム再生する

[RANDOM]キーを押すごとに、ランダム再生と解除が切り換わる。

リピート再生

[REPEAT]キーを押すごとに、1曲リピート→全曲リピート→リピート解除が切り換わる。

時間表示を切り換える

[TIME DISP.]キーを押すごとにディスプレイ表示が、1曲の経過時間→1曲の残り時間→トータルの経過時間→トータルの残り時間が切り換わる。

※プログラムモード(P.36)も同様です。1曲リピート(P.39)、ランダムモード（P.38）では、1曲の経過時間→1曲の残り時間で切り換わる。

曲番号を指定する

5曲目なら (5) を押す。

17曲目なら (+10)、(7) を押す。

一時停止と再開

[CD]キーを押す。

停止する

AUTO/MONO [■] キーを押す。

早送り / 早戻しをする

再生中に [◄◄] / [►►] キーを押し続ける。

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る

曲を飛ばす→ [►►I] キーを押す。

前の曲へ戻る→ [I◄◄] キーを連続して2回以上押す。

曲の初めに戻る→ [I◄◄] キーを1回押す。

CD

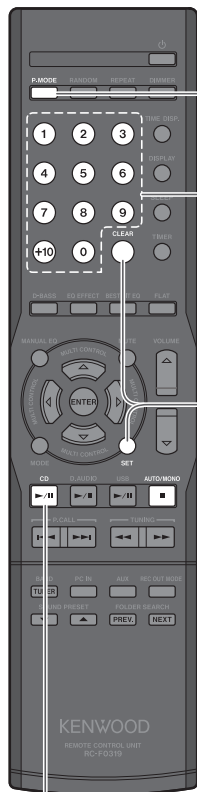
音質設定編

機器設定編

保守編

CDをプログラムモードで再生する

CD の好きな曲を好きな順番で聞きます。

- CD [►/II] キーを押して、音源をCDに切り換えます。
  切り換えると再生が始まるので、AUTO/MONO [■] キーを押して再生を停止します。
- 再生中の場合は、AUTO/MONO [■] キーを押して再生を停止します。

1 [P.MODE]キーを押してプログラムモードを選ぶ

押すごとに切り換わります。

プログラムモード　　プログラムモードを解除します

2 数字キーで聞きたい曲を1曲選ぶ

CDの7曲目をプログラムの1曲目に選んだ場合

7曲目なら (7) を押す
17曲目なら (+10)、(7) を押す。

[SET]キーを押す

※曲を選んでから20秒以内に押してください。

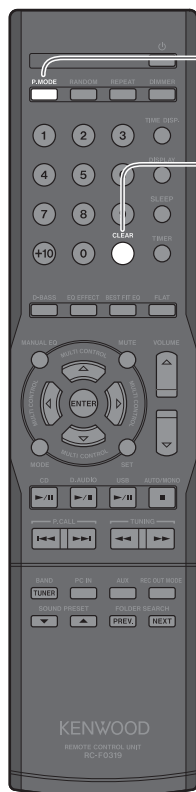
※入力を間違えた場合は、**[CLEAR]**キーを押してから、もう一度入力します。

3 2曲以上選ぶときは手順2を繰り返す

※32曲まで選ぶことができます。さらに選ぼうとすると「PGM FULL」と表示されます。

4 [CD]キーを押して再生する

※電源をOFFにしたり、プログラム再生を設定したCDを取り出すと設定したプログラム内容は消えます。

関連情報
●CDをランダム再生する→P.38
●CDをリピート再生する→P.39

■プログラムモードを解除するには

・再生を停止し、**[P.MODE]**キーを押して「PGM」表示を解除します。
　設定したプログラムは消去します。

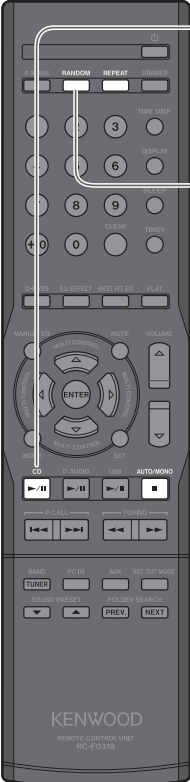
■プログラムした曲を取り消すには

・再生を停止し、その後**[CLEAR]**キーを押します。
　押すごとに、プログラムした最後の曲から１曲ずつ消えていきます。

■曲を後から追加するには

・再生している場合は停止してから、手順2の操作をします。

CDをランダム再生する

再生中の CD の曲を順不同で聞きます。

1 [CD] キーを押して再生する

2 [RANDOM]キーを押してランダム再生する

押すごとに切り換わります。

ランダム再生します　　ランダム再生を解除します

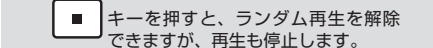
■解除するには

・ランダム再生中に**[RANDOM]**キーを押し、

 を消灯させせます。

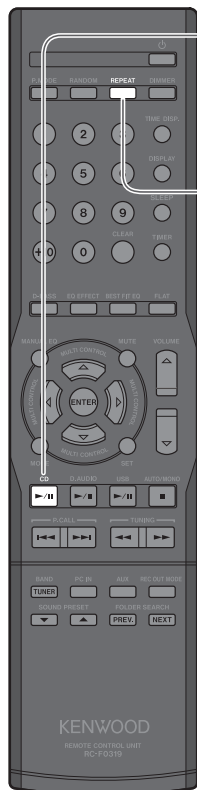
AUTO/MONO

■ キーを押すと、ランダム再生を解除できますが、再生も停止します。

Point

※ランダム再生中に REPEAT キーを押すと、ランダム再生がひと通り終わってから、先ほどとは違う順番でランダム再生が始まります。

※ランダム再生中は再生済みの曲へ飛ばすことはできません。

CDをリピート再生する

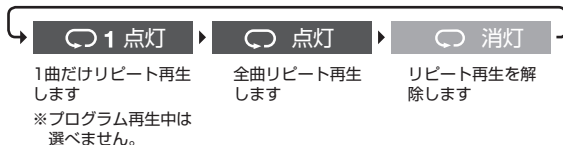
CD の曲を繰り返し聞きます。

1 [CD] キーを押して再生する

2 [REPEAT]キーを押してリピート再生する

押すごとに切り換わります。

1曲だけリピート再生します
※プログラム再生中は選べません。

全曲リピート再生します

リピート再生を解除します

■解除するには

・プログラム再生中に**[REPEAT]**キーを押し、
 を消灯させせます。

Point

※プログラム再生中に REPEAT キーを押すと、選んだ曲を繰り返し再生します。

CD

音質設定編

機器設定編

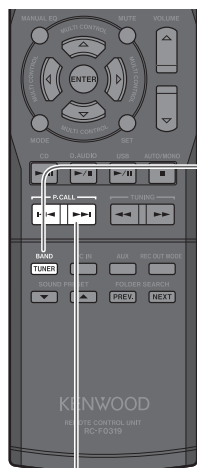
保守編

FM/AM ラジオ

FM/AM ラジオを聞いたり、放送局をセットします。

FM/AMラジオを聞く

FM/AM の放送局を選んで聞きます。

●リモコンの BAND TUNER キーを押すだけで本機の電源がオンになります。

[TUNER]キーを押してFMまたはAMを選ぶ

押すごとに、FMとAMが切り換わります。

放送局を選ぶ

記憶させている放送局から選ぶ場合（プリセットコール）

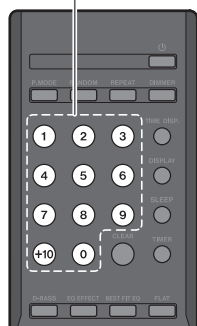
記憶させてある放送局を選びます。

※プリセットについてはP.42、P.44参照。

■[P.CALL]キーで選ぶ場合

■数字キーで選ぶ場合

P17なら (+10)、(7) を押す

P23なら (+10) ×2回、(3) を押す

関連情報
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定(いい音で聞く方法)→P.53 ～

記憶させていない放送局を選ぶ場合（オート選局/マニュアル選局）

■オート選局の場合は

押すごとに次の放送局を自動で受信します。お好みの放送局を受信するまで操作を繰り返してください。

■マニュアル選局の場合は

受信するまで、または受信したい周波数になるまで押してください。
押し続けると周波数が早送りになります。

リモコン操作の場合

❶オート選局かマニュアル選局かを選びます。

[AUTO/MONO]キーを押す

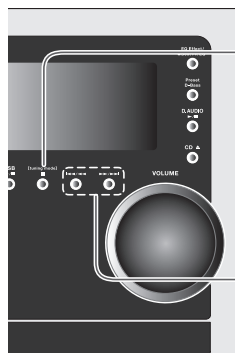
押すごとに切り換わります。

オート選局
（電波状況の良いときに選びます）

マニュアル選局
（電波状況の悪いときに選びます）

❷放送局を選びます。

[TUNING]キーで選ぶ

本体操作の場合

❶オート選局かマニュアル選局かを選びます。

[tuning mode]

押すごとに切り換わります。

または

❷放送局を選びます。

※8秒以内にキーを操作してください。

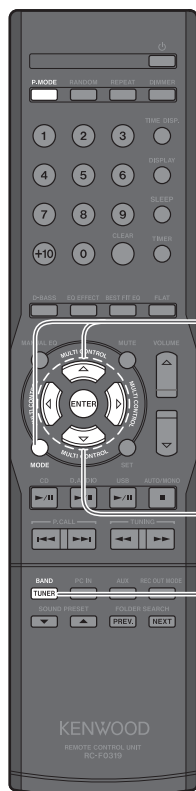
※オート選局/マニュアル選局中は音が出ません。

※オート選局はステレオ受信、マニュアル選局はモノラル受信になります。受信すると「TUNED」が点灯します。ステレオ受信すると「STEREO」が点灯します。

放送局を自動で記憶させる（オートプリセット）

お住まいの都道府県と、隣接する都道府県の放送局を自動的に記憶させます。記憶する放送局は次のページの「放送局名自動表示リスト」にある放送局のみに対応しています。プリセットされる放送局数は県によって異なります。プリセット番号 P01 から順にセットされます。

※ケーブルテレビなどのアンテナを本機に接続した場合は、放送局が正しく表示されない場合があります。

※放送局はFM、AM合わせて最大30局まで記憶させることができます。

1 [TUNER]キーを押してFMまたはAMを選ぶ

押すごとに、FMとAMが切り換わります。

※他の音源が選ばれていると、放送局を記憶させることができません。

2 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

ケンメイ　セッテイ

▶ **[ENTER]**キーを押す

3 お住まいの都道府県名を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

トウキョウ

例）東京都を選んだ場合

▶ **[ENTER]**キーを押す

※ディスプレイに［AUTO PRESET］が点滅して放送局が記憶されます。記憶後はプリセット番号P01を受信した状態になります。

※すでに記憶されている周波数も書き換えることができます。

※プリセットしても電波状況が悪い場合は、受信できません。

※放送局名自動表示リスト以外の放送局は、マニュアルプリセットで記憶します。（P.44参照）

※地域によっては、周波数が同じでも放送局名が違う場合があります。希望する放送局名が表示されない場合は、リモコンの P.MODE キーを押すことにより別の放送局名に切り換えることができます。

※電波状況が悪く「TUNED」が点灯していないと放送局名は表示されません。

関連情報
●FM/AMラジオを聞く→P.40
●放送局を手動で記憶させる（マニュアルプリセット）→P.44

TUNER

【放送局名自動表示リスト（五十音順）】

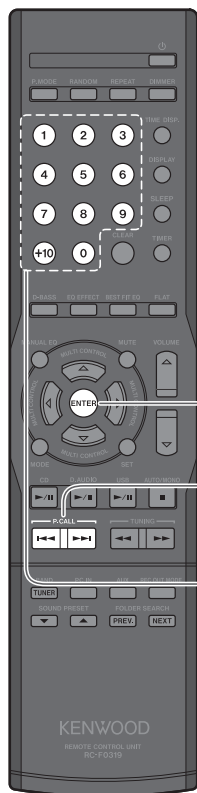
※放送局名は変更されることがあります。

都道府県名	放送局	表示名
	NHK-FM	NHK-FM
愛知県	㈱エフエム愛知	FM AICHI
愛知県	㈱ZIP-FM	ZIP-FM
愛知県	愛知国際放送㈱	RADIO-i
青森県	㈱エフエム青森	FMｱｵﾓﾘ
秋田県	㈱エフエム秋田	FMｱｷﾀ
石川県	㈱エフエム石川	FM ISHIKAWA
岩手県	㈱エフエム岩手	FM IWATE
愛媛県	㈱エフエム愛媛	FMｴﾋﾒ
大分県	㈱エフエム大分	FM OITA
大阪府	㈱FM802	FM802
大阪府	㈱エフエム大阪	fm osaka
大阪府	関西ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｱ㈱	FM CO·CO·LO
岡山県	岡山エフエム放送㈱	FMｵｶﾔﾏ
沖縄県	AFN沖縄	AFNｵｷﾅﾜ
沖縄県	㈱エフエム沖縄	FM Okinawa
	NHK第一	NHKﾗｼﾞｵ1
香川県	㈱エフエム香川	Fm FMｶｶﾞﾜ
鹿児島県	㈱エフエム鹿児島	ﾐｭｰFM
神奈川県	横浜エフエム放送㈱	Fm Yokohama
岐阜県	岐阜エフエム㈱	Radio 80
京都府	㈱エフエム京都	FMｷｮｳﾄ
熊本県	㈱エフエム熊本	FMK
群馬県	㈱エフエム群馬	FM GUNMA
高知県	㈱エフエム高知	FM KOCHI
埼玉県	㈱FM NACK5	NACK5
佐賀県	㈱エフエム佐賀	FMｻｶﾞ
滋賀県	㈱エフエム滋賀	e-radio
静岡県	静岡エフエム放送㈱	K-MIX

都道府県名	放送局	表示名
島根県	㈱エフエム山陰	fm-sanin
千葉県	㈱ベイエフエム	bayfm
東京都	ｴﾌｴﾑｲﾝﾀｰｳｪｰﾌﾞ㈱	InterFM
東京都	㈱J-WAVE	J-WAVE
東京都	㈱エフエム東京	TOKYO FM
東京都	放送大学	ﾎｳｿｳﾀﾞｲｶﾞｸ
徳島県	㈱エフエム徳島	FMﾄｸｼﾏ
栃木県	㈱エフエム栃木	RADIO BERRY
富山県	富山エフエム放送㈱	FMﾄﾔﾏ
富山県	北日本放送㈱	KNBﾗｼﾞｵ
長崎県	㈱エフエム長崎	Smile-FM
長野県	長野エフエム放送㈱	FM NAGANO
新潟県	㈱エフエムラジオ新潟	FM-NIIGATA
新潟県	新潟県民エフエム放送㈱	FM PORT
兵庫県	㈱Kiss-FM KOBE	Kiss-FM
広島県	広島エフエム放送㈱	ﾋﾛｼﾏFM
福井県	福井エフエム放送㈱	FMFUKUI
福岡県	㈱エフエム九州	CROSS FM
福岡県	㈱エフエム福岡	fm fukuoka
福岡県	㈱九州国際エフエム	Love FM
福島県	㈱エフエム福島	ﾌｸｼﾏFM
北海道	㈱エフエム・ノースウェーブ	NORTH WAVE
北海道	㈱エフエム北海道	AIR-G’
三重県	三重エフエム放送㈱	Radio3 FMﾐｴ
宮城県	㈱エフエム仙台	Date fm
宮崎県	㈱エフエム宮崎	JOY FM
山形県	㈱エフエム山形	BOY FM
山口県	㈱エフエム山口	FMﾔﾏｸﾞﾁ
山梨県	㈱エフエム富士	FM-FUJI

放送局を手動で記憶させる（マニュアルプリセット）

放送局を選択して好きなプリセット番号に登録します。すでに、放送局が記憶されているプリセット番号に登録すると、新しい放送局に変更されます。

※放送局はFM、AM合わせて最大30局まで記憶させることができます。

1 記憶させたい放送局を選び、[ENTER]キーを押す

プリセットに登録したい放送局を、オート選局またはマニュアル選局で選びます。（P.41参照）

プリセット番号を表示するところが点滅

2 記憶させたいプリセット番号（P1 ～ P30）を選ぶ

■[P.CALL]キーで選ぶ場合

■数字キーで選ぶ場合

P17なら (+10)、(7) を押す

P23なら (+10) ×2回、(3) を押す

17 FM 88.80

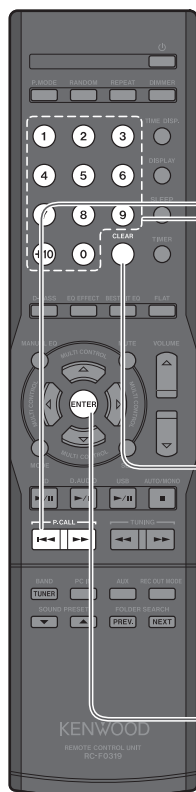
選んだプリセット番号が表示される

※すでに放送局が記憶されているプリセット番号を選ぶと、新しい設定に変更されます。

3 [ENTER]キーを押して確定する

関連情報
●FM/AMラジオを聞く→P.40

記憶させた放送局を消す

プリセットに登録した放送局をプリセットから消します。

1 消したい放送局のプリセット番号を選ぶ

■[P.CALL]キーで選ぶ場合

29 FM 90.00

例）P29を選んだ場合

■数字キーで選ぶ場合

P17なら (+10)、(7) を押す

P23なら (+10) ×2回、(3) を押す

2 [CLEAR]キーを押す

P29 CLEAR?

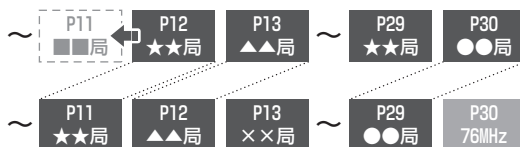
※ディスプレイに「CLEAR?」と20秒間表示されます。

※プリセット番号P30を選ぶと「CAN'T CLEAR」と表示されます。P30は消せません。

3 [ENTER]キーを押して放送局を消す

ディスプレイに「CLEAR？」と20秒間表示されている間に、**[ENTER]**キーを押してください。

■放送局を消すとプリセット番号は？

例）P11の「■■局」を消すと

後ろのプリセット番号が前に繰り上がります。

空いてしまうプリセット番号には自動的にFM76MHzが記憶される。

FM/AM

音質設定編

機器設定編

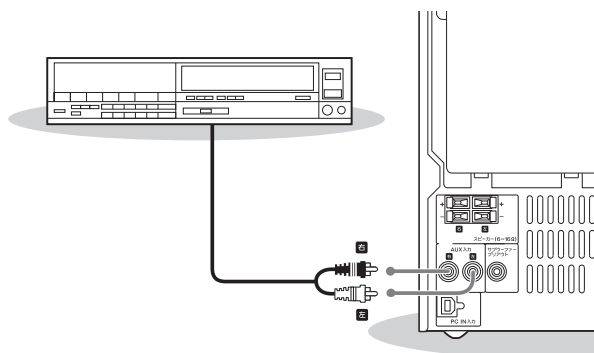
保守編

本機に外部機器を AUX 接続して曲を再生することができます。

外部機器をAUX接続して再生する

外部機器の音声出力端子と本機の AUX 入力端子を接続します。

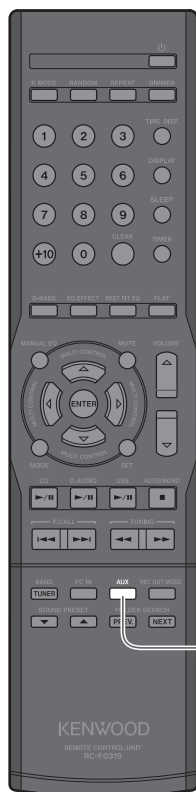
※接続するときは、本機と外部機器の電源を必ずOFFにして接続してください。
※接続する外部機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

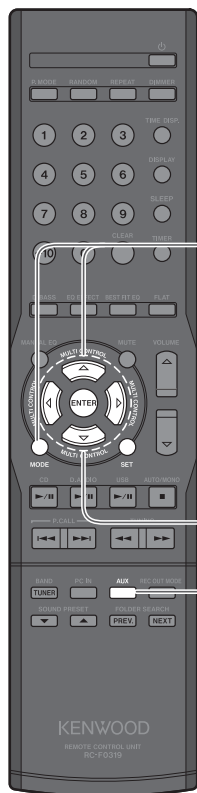
1 本体裏面のAUX入力端子と、外部機器の音声出力端子をケーブルで接続する

2 [AUX]キーでAUX（外部入力）に切り換える

※**[AUX]**キーを押すだけで本機の電源がオンになります。

AUX

3 接続した外部機器を再生する

接続した外部機器を操作して再生します。

外部機器入力レベルの調整

AUX 入力端子に接続した外部機器の入力レベルを調整することができます。
同じボリュームでも外部機器からの音量がほかの音源より大きく、または小さく感じた場合は調整してください。

1 [AUX]キーを押して音源を切り換える

2 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

AUX INPUT

▼

[ENTER]キーを押す

3 入力レベルを設定する

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

LEVEL -2

※−3〜+5の範囲で選ぶ

▼

[ENTER]キーで確定する

Point
※入力レベルを調整すると、接続された外部機器から録音するときの音量も変わります。

D.AUDIO

ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤー（以下「デジタルオーディオプレーヤー」といいます）を接続して再生したり、本機からデジタルオーディオプレーヤーに録音することができます。

デジタルオーディオプレーヤーを接続して再生する

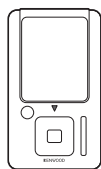
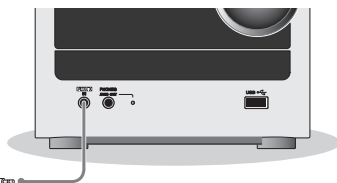
デジタルオーディオプレーヤーを本機に接続して再生します。

●接続するデジタルオーディオプレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
●別売の専用ケーブルPNC-150を使って接続すると、本機やリモコンでデジタルオーディオプレーヤーを操作できます。

接続可能なケンウッド製デジタルオーディオプレーヤー

HDDオーディオプレーヤー	メモリオーディオプレーヤー
HD20GA7 HD30GA9 HD30GB9 HD10GB7	M1GB5/M512B5 M2GC7/M1GC7 M512C5

2006年12月現在

1 [D.AUDIO IN端子]にデジタルオーディオプレーヤーをケーブルで接続する

※接続するときは、本機とデジタルオーディオプレーヤーの電源は必ずOFFにして接続してください。

2 デジタルオーディオプレーヤーの電源を入れる

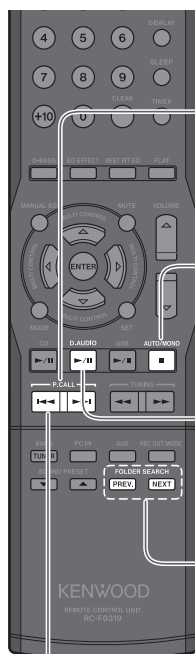
3 [D.AUDIO]キーを押して再生する

※**[D.AUDIO]**キーを押すだけで本機の電源がオンになります。

※専用ケーブル PNC-150以外で接続した場合は、接続したデジタルオーディオプレーヤー側で操作します。

■専用ケーブル PNC-150で接続した場合
・デジタルオーディオプレーヤーで操作できるほか、本体やリモコンからも操作できます。

●外部機器入力レベルの調整→P.50
●デジタルオーディオプレーヤーに録音する→P.51
●音質設定(いい音で聞く方法)→P.53 ～

【デジタルオーディオプレーヤー再生中のリモコン操作】

早送り / 早戻しをする

再生中に [I◄◄] / [►►I] キーを押し続ける。

停止する

AUTO/MONO
[■] キーを押す。

一時停止と再開

[D.AUDIO]キーを押す。

前のフォルダ/ 次のフォルダの曲を再生する

前のフォルダへは**[PREV.]**キーを押す。
次のフォルダへは**[NEXT]**キーを押す。

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る

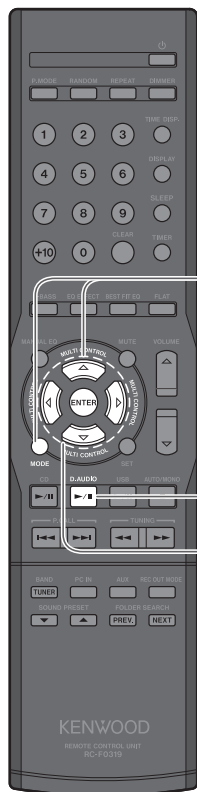
曲を飛ばす→ [►►I] キーを押す。

前の曲へ戻る→ [I◄◄] キーを連続して2回以上押す。

曲の初めに戻る→ [I◄◄] キーを1回押す。

※本機へ接続している間はデジタルオーディオプレーヤーの音量、音質設定が無効になります。

外部機器入力レベルの調整

D.AUDIO IN 端子に接続した外部機器の入力レベルを調整することができます。
同じボリュームでも外部機器からの音量がほかの音源より大きく、または小さく感じた場合には調整してください。

1 [D.AUDIO]キーを押して音源を切り換える

2 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

D.AUDIOinput

▼

[ENTER]キーを押す

3 入力レベルを設定する

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

LEVEL −2

※−3〜+5の範囲で選ぶ

▼

[ENTER]キーで確定する

デジタルオーディオプレーヤーに録音する

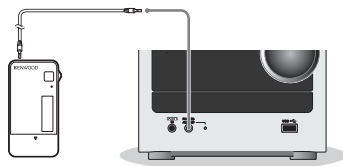
パソコン、CD、USB、ラジオ放送（FMまたはAM）、AUXからケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーに録音します。デジタルオーディオプレーヤーは無音部分を感知し、自動でトラックを作成することもできます。

●本機とデジタルオーディオプレーヤーを接続しておきます。
●接続するデジタルオーディオプレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
●音源となる機器を接続しておきます。

接続可能なケンウッド製デジタルオーディオプレーヤー

2006年12月現在

メモリオーディオプレーヤー
M1GB5/M512B5 M2GC7/M1GC7

1 PHONES/REC OUT端子にデジタルオーディオプレーヤーのケーブルを接続する

2 録音する音源を選ぶ

[PC IN]キー、**[CD]**キー、**[USB]**キー、**[TUNER]**キー、**[AUX]**キーを押して選びます。

3 録音の準備をする

パソコンの場合

録音するコンテンツの準備をします。（P.28参照）

CD、USBの場合

[CD]キー、**[USB]**キーを押し、再生を 一時停止します。
録音したい曲を選んだり、録音したい箇所で一時停止します。
（P.31、P.35参照）

ラジオの場合

選局します。（P.40参照）

外部機器の場合

受信や再生などを準備します。（P.46参照）

次ページに続く

デジタルオーディオプレーヤーに録音する（つづき）

4 [REC OUT MODE]キーを押す

※ヘッドホンをしたまま「REC OUT MODE」に変更すると、音が大き
くなることがありますのでご注意ください。

[SET]キーを押す

※5秒以内にキーを操作
してください。

本体のREC OUTインジ
ケーターも点灯します。

5 デジタルオーディオプレーヤーを操作して録音を開始する

6 再生を始める

パソコン、外部機器の場合

パソコン、外部機器を操作して再生を始めます。

CD、USBの場合

[CD]キー、**[USB]**キーを押し、再生を始めます。

※ラジオの場合、この手順は不要です。

■録音を停止する

AUTO/MONO

■ キーを押す。

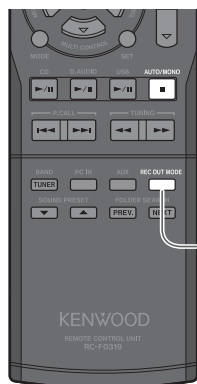
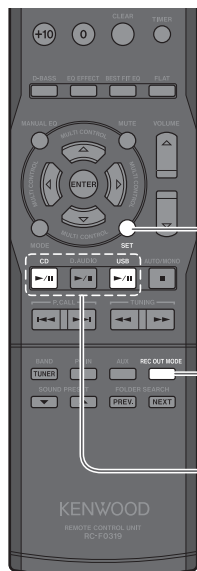
※デジタルオーディオプレーヤーの録音を停止させる
場合は、接続しているデジタルオーディオプレーヤー
を操作してください。

■録音が終わったら

・**[REC OUT MODE]**キーを押して
「REC OUT MODE」を解除します。

「HEADPHONE」と表示されます。

■録音した音が歪む、または小さいと感じた場合

・録音レベルを調整してください。（P.72参照）

音質設定編

ステレオシステムならではの音質設定をお楽しみください。
低音を強調するD-BASSや、それぞれの曲に最適なイコライザーカーブを設定できます。あらかじめ設定（プリセット）されているD-BASS、イコライザーカーブを選べば、手軽にサウンド効果をお試しいただけます。

D-BASS（低音強調）

イコライザー

サウンドプリセット

D-BASS（低音強調）

低音域を楽しむために、D-BASS を設定します。あらかじめ設定された 4 種類のプリセット D-BASS から選んだり、リモコンを使ってさらに細かいレベル調節を行うことができます。
※音源によっては効果がわかりにくいことがあります。

プリセットD-BASSを選ぶ

あらかじめ設定されている 4 種類のプリセット D-BASS から、再生する音に合うものを選ぶことができます。簡単に切り換えられるので、再生しながらお試しください。

1 本体の[Preset D-Bass]キーを押して、好みのプリセットD-BASSを選ぶ

[Preset D-Bass]キーを押すごとに、切り換わります。

関連情報
●イコライザー→P.56 ～
●サウンドプリセット→P.61

D-BASSを調節する

D-BASS をお好みに合わせて調節します。強調する周波数を LOW、HIGH から選び、さらに強調レベルを 10 段階で調節できます。
調節したサウンド効果はサウンドプリセットに登録しておき、いつでも使えます。（P.61 参照）

[D-BASS]キーを押して「LOW-BASS」または「HIGH-BASS」を選ぶ

※ディスプレイの「D-BASS」が点滅している間に、**[D-BASS]**キーを押します。

[D-BASS]キーを押すごとに、切り換わります。

LOW BASS
重低音の録音レベルが高いソースでは、サブウーファーを追加したような迫力ある重低音を楽しめます。

HIGH BASS
重低音の録音レベルが低いソース（例：オールディーズ、ポップス）に効果的です。

※ディスプレイは「HIGH BASS」「LOW BASS」を切り換えた5秒後にもとの表示に戻ります。

[MULTI CONTROL]キーでレベルを調節する

例）HIGH BASS、強調レベル7

※レベルを0～10の範囲で調節します。数字が大きいほどより強く強調されます。

※ディスプレイはレベル調整した3秒後にもとの表示に戻ります。左下の「D-BASS」が点滅から点灯に変わります。

■一時的に解除する

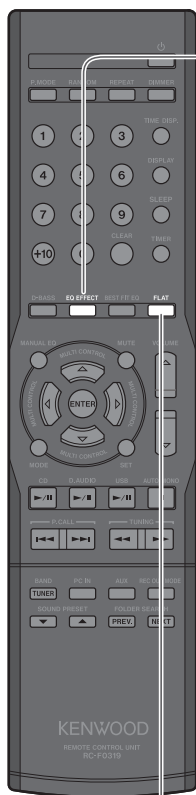
[FLAT]キーを押すと、設定したD-BASSを一時的に解除して、設定前の音質に戻ります。
もう一度**[FLAT]**キーを押すと、設定したD-BASSになります。

音質設定編

イコライザー

イコライザーを使って重低音域から超高音域までを調整して、お好みのサウンド効果を設定できます。
すでに設定されたイコライザーカーブから選んだり、さらに細かく調整することもできます。
※音源によっては効果がわかりにくいことがあります。

設定されたイコライザーカーブを選ぶ（EQ EFFECT）

あらかじめ設定されている４種類のイコライザーカーブと、それぞれのジャンルにふさわしい設定をする「BEST FIT EQ」から、音質を選ぶことができます。

1 **[EQ EFFECT]キーを押して音質を選ぶ**

SOFT

EQ EFFECT

※ディスプレイの「EQ EFFECT」が点滅している間に、**[EQ EFFECT]**キーを押します。

[EQ EFFECT]キーを押すごとに、切り換わります。

SOFT ― BGMなど、ゆったりとした音楽に効果的です。

▼

CLEAR ― ジャズやクラシックなど、高音域を鮮明に聞きたい場合に効果的です。

▼

HARD ― ロックなど、重低音のある曲をメリハリよく楽しめます。

▼

VOCAL ― ボーカルの張りや、つやを強調します。

▼

BEST FIT ― 「BEST FIT」は、あらかじめ「BEST FIT EQ」で設定しておく必要があります。（P.57参照）

▼

EFFECT OFF ― OFF

※ディスプレイは音質を切り換えた5秒後にもとの表示に戻ります。右下の「EQ EFFECT」が点滅から点灯に変わります。

■一時的に解除する

[FLAT]キーを押すと、設定した音質を一時的に解除して、設定前の音質に戻ります。
もう一度**[FLAT]**キーを押すと、設定した音質になります。

関連情報 ●サウンドプリセット→P.61

CDに最適なイコライザーにする（BEST FIT EQ）

それぞれの CD にふさわしいイコライザーカーブを自動的に検出して、サウンド効果を設定します。
サウンド効果はサウンドプリセットに登録しておき、いつでも使えます。（P.61 参照）

● CD [►/II] キーを押して、音源をCDに切り換えます。

1 [BEST FIT EQ]キーを押す

BEST FIT EQ
BEST FIT EQ

※設定中は表示が点滅します。

※自動的に、CDに最適なイコライザーカーブを設定します。

▼

CD 01 0:00
BEST FIT EQ EFFECT

※設定が終了するともとの表示に戻ります。

※設定を保存しておく場合には、サウンドプリセットに登録してください。(P.61参照)

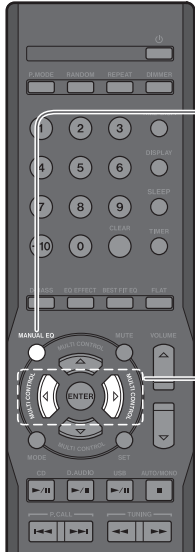
■一時的に解除する

[FLAT]キーを押すと、設定した音質を一時的に解除して、設定前の音質に戻ります。
もう一度**[FLAT]**キーを押すと、設定した音質になります。

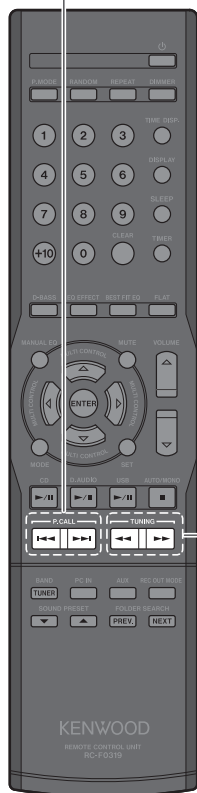
※新たにBEST FIT EQを設定すると前の設定は消えます。設定を保存しておく場合には、サウンドプリセットに登録してください。（P.61参照）

※設定したBEST FIT EQはEQ EFFECTでも呼び出して使うことができます。（P.56参照）

イコライザーを設定する（MANUAL EQ）

本格的な７バンドのイコライザーで、お好みのサウンド効果を設定できます。イコライザー設定はサウンドプリセットに登録しておけば、いつでも呼び出せます。（P.61 参照）

重低音域の調整 (31.5Hz, 40Hz, 50Hz, 63Hz, 80Hz)	このレベルを上昇させると、ベースやバスドラムのような低音域の楽器がどっしりとした安定感のある音として再生されます。また、重低音域が響きすぎると感じられる場合は、適当と思われる所まで下降させます。
低音域の調整 (125Hz, 140Hz, 160Hz, 180Hz, 200Hz)	日本の建築様式では欧米の家屋に比べ密閉度が低いため、リスニングルームの共振点がこの周波数帯にあり、低音が出過ぎる感じになりやすいものです。従って、リスニングルームの共振を防ぐためにこの低音域を下降させることが多いようです。
中低音域の調整 (315Hz, 350Hz, 400Hz, 450Hz, 500Hz)	音楽の基礎となるこの音域の音は、やせているとか、豊かだと感じられる所です。もの足りない音だと思われる場合は、このレベルをわずかに上昇させると、豊かな感じの音になります。
中音域の調整 (800Hz, 890Hz, 1kHz, 1.1kHz, 1.25kHz)	この中音域を調整すると、ボーカルが入っている曲では歌手の声が前に出たり、奥に引っ込むような感じになり、臨場感に影響を与えます。音の奥行きと深みに関係する帯域です。
中高音域の調整 (2kHz, 2.2kHz, 2.5kHz, 2.8kHz, 3.15kHz)	この周波数帯域は、刺激の強い、金属的で硬い音として感じられる所です。うまく調整すれば、爽快さや明るさが出てきますが、反面うるさい感じになることもあります。
高音域の調整 (5kHz, 5.6kHz, 6.3kHz, 7.1kHz, 8kHz)	この周波数帯域は、硬い感じ、柔らかい感じなど、音楽のイメージに影響を与える所です。上昇させると弦楽器（バイオリンなど）や、管楽器（フルート、ピッコロなど）が張りのある音になり、下降させるとおとなしい感じの音になります。
超高音域の調整 (12.5kHz, 14kHz, 16kHz, 18kHz, 20kHz)	この周波数帯域は、音の広がりや繊細感に影響を与えるところです。上昇させると超高音域の楽器（トライアングル、シンバルなど）が快く響き、音の広がりや繊細感が増します。

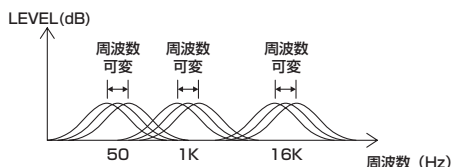
低音 ↕ 高音

関連情報 ●サウンドプリセット→P.61

3 [P.CALL]キーで周波数を設定する

選択したバンドの中心周波数を選びます

※それぞれのバンドの中から5種類の中心周波数を設定できます。ただし、各周波数ごとにレベル設定するものではありません。(ひとつのバンドにつき、ひとつの周波数に対して効果があります。)

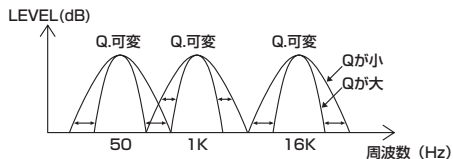
※各周波数についてはP.58の表を参照。

・周波数可変のイメージ

4 [TUNING]キーでQ(音域カーブの傾斜)を設定する

選択したバンドのQを選びます

※Qは2.0〜5.0まで0.5単位で設定できます。

・Qの大小による周波数特性の違い
・Qの可変イメージ

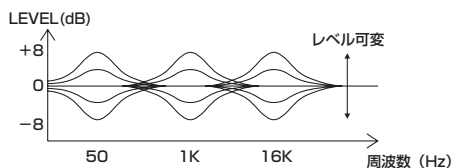
音質設定編

イコライザーを設定する（MANUAL EQ）（つづき）

5 [MULTI CONTROL]上下キーでレベルを設定する

LEVEL: +2dB

※－8～＋8の範囲で設定できます。

[MANUAL EQ]キーを押す

・レベル可変のイメージ

LEVEL(dB)
+8
0
−8
50
1K
16K
周波数（Hz）
レベル可変

※設定を保存しておく場合には、サウンドプリセットに登録してください。(P.61参照)

■一時的に解除する

[FLAT]キーを押すと、設定した音質を一時的に解除して、設定前の音質に戻ります。
もう一度**[FLAT]**キーを押すと、設定した音質になります。

※新たにMANUAL EQを設定すると前の設定は消えます。設定を保存しておく場合には、サウンドプリセットに登録してください。（P.61参照）

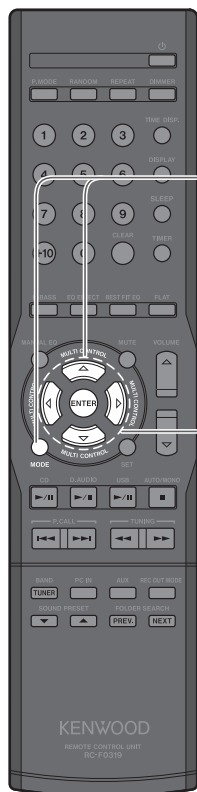
※周波数、レベル、Qが各々選べるのでQを大きくして特定の周波数（楽器）を強調したり、逆にQを小さくして特定の周波数にピークを持たないカーブにしたりできます。手順2から5を繰り返して、お客様のお好みに合わせて調節してみてください。

サウンドプリセット

設定したサウンド効果を、サウンドプリセットとして5つまで登録できます。
登録したサウンドプリセットは [SOUND PRESET] キーを押すだけで呼び出して使うことができます。

サウンド効果を登録する

D-BASS、MANUAL EQ、BEST FIT EQ で設定したサウンド効果を 5 つまで登録します。

●D-BASS（P.55）、BEST FIT EQ（P.57）、MANUAL EQ（P.58）でサウンド効果を設定しておきます。

1 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

SOUND PRESET

▼

[ENTER]キーを押す

2 [MULTI CONTROL]キーでプリセット番号を選ぶ

登録先（1～5）を選ぶ

PRESET 12345

PRESET 1 2 3 4 5

※現在設定されているサウンド効果が登録されます。

※登録したサウンド効果を使う場合（P.62参照）

▼

[ENTER]キーで確定する

音質設定編

サウンドプリセットを使う

登録したサウンドプリセットを呼び出して使います。

●あらかじめ、使いたいサウンド効果をサウンドプリセットに登録しておきます。（P.61参照）

1 [SOUND PRESET]キーを押してプリセット番号を選ぶ

[SOUND PRESET]キーを押すごとに、切り換わります。

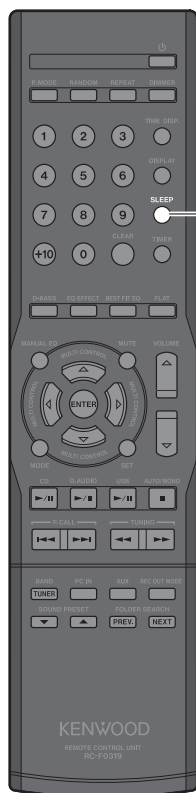
機器設定編

基本的な時刻設定のほか、タイマーやディスプレイ設定など、本機をより便利に使いこなしていただくための機能を説明しています。

タイマー設定

設定した時間が過ぎると自動的に電源がオフになるおやすみタイマーと、
設定した時間になると、再生を始めるプログラムタイマーがあります。

おやすみタイマーを設定する（SLEEP）

設定した時間が過ぎると自動的に電源がオフになります。電源オフまでの時間は 10 分～ 90 分を 10 分単位で設定できます。

1 [SLEEP]キーを押す

押すごとに10分単位で時間が長くなります。
90分の次はタイマーオフになります。

※電源をオフにするか、OFFを選ぶとおやすみタイマーは解除されます。

おやすみタイマー設定中

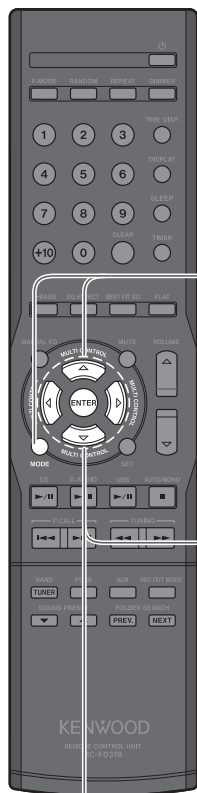
関連情報 ●時刻設定→P.70

プログラムタイマーを設定する（PROGRAM）

タイマーを利用して、設定した時間に自動的に再生を開始します。2 つのタイマー（PROGRAM1、PROGRAM2）を同時に設定しておくことができます。CD、ラジオ、外部機器を再生できます。

●本機の時計を合わせておきます。（P.70参照）

※PROGRAM1とPROGRAM2の作動する時間が重ならないように、1分以上の間を開けて設定してください。

※外部機器の音を再生する場合は、外部機器を接続し外部機器のタイマーも設定しておいてください。（接続する外部機器の取扱説明をご覧ください）

1 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

TIMER SET

▼

[ENTER]キーを押す

2 「PROG.1」または「PROG.2」を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

PROG.1 SET

▼

[ENTER]キーを押す

3 「ON」または「OFF」を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

PROG.1 OFF

※「OFF」を選ぶと操作が終了し、もとの表示に戻ります。

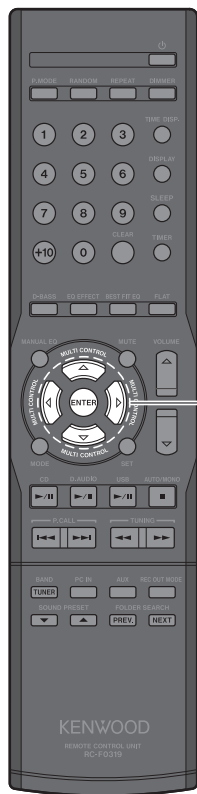
▼

※「EVERYDAY」と表示されます。

▼

[ENTER]キーを押す

次ページに続く

機器設定編

4 「EVERYDAY」または「ONETIME」を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

EVERYDAY

毎日タイマー動作を繰り返します。

ONETIME

1回だけタイマー作動してOFFになります。

[ENTER]キーを押す

5 開始時間を設定する

「時」を**[MULTI CONTROL]**キーで合わせる

[ENTER]キーを押す

「分」を**[MULTI CONTROL]**キーで合わせる

[ENTER]キーを押す

6 終了時間を設定する

「時」を**[MULTI CONTROL]**キーで合わせる

[ENTER]キーを押す

「分」を**[MULTI CONTROL]**キーで合わせる

[ENTER]キーを押す

7 「PLAY」または「AI PLAY」を設定する

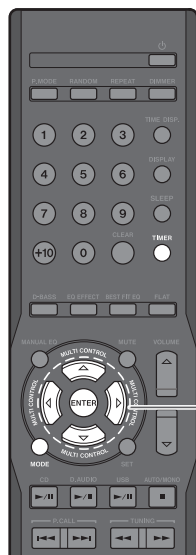
[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

PLAY

はじめから音量が手順8で設定するレベルで再生されます。

設定した時刻に再生が始まり、音量が手順8で設定するレベルまで徐々に大きくなります。

[ENTER]キーを押す

関連情報 ●FM/AMラジオ→P.40

8 音量を設定する

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

VOLUME 10

▶ [ENTER]キーを押す

ボリュームレベルを選びます

9 音源を設定する

[MULTI CONTROL]キー
で音源を選択します。

CDの場合	TUNERの場合	AUXの場合
CD	TUNER	AUX
[ENTER]キーで確定する	[ENTER]キーを押す 01 FM 84.00 MHz [MULTI CONTROL]キーで放送局（プリセット番号01～30）を選ぶ ※選局についてはP.40参照。 [ENTER]キーで確定する	[ENTER]キーで確定する
※再生するCDを開始時間までに本機に入れておきます。		※外部機器のタイマーを設定しておきます。（接続する外部機器の取扱説明書をご覧ください）

10 電源をOFFにする

スタンバイ・タイマーインジケーターがオレンジ色に点灯します。

※オレンジ色に点滅しているときは時計を合わせてください。（P.70参照）

■設定を途中でやめるには

MODE キーを押す。

■タイマーを解除（OFF）/再設定（ON）するには

※電源をONにしてから行ってください。

TIMER キーを押すごとに切り換わります。

1 点灯：PROGRAM 1がONの状態 ▶ 2 点灯：PROGRAM 2がONの状態 ▶ 1 2 点灯：PROGRAM 1、2がONの状態 ▶ 1 2 消灯：タイマーがOFFの状態

機器設定編

ディスプレイ設定

ディスプレイの明るさを調節したり、本体のボリューム部分のイルミネーションやスペクトラムアナライザの点灯のしかたを設定します。

ディスプレイの明るさを設定する（DIMMER）

ディスプレイの明るさを 2 段階で調節できます。お好みやお部屋の状態によって調節してください。

1 [DIMMER]キーを押す

押すごとに、明るめ、暗めが切り換わります。

ボリュームのイルミネーションを設定する（ILLUMINATION）

本体のボリューム部分はブルーのイルミネーションになっています。点灯のしかたを、点滅、常時点灯、消灯の 3 種類から選べます。

※USB、CD再生中はゆっくり点滅します。
ボリューム操作時は速く点滅します。

1 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

ILLUMINATION

[ENTER]キーを押す

2 イルミネーションの種類を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

ILLUMI　1　ゆっくり点滅

▼

ILLUMI　2　常時点灯

▼

ILLUMI　OFF　消灯

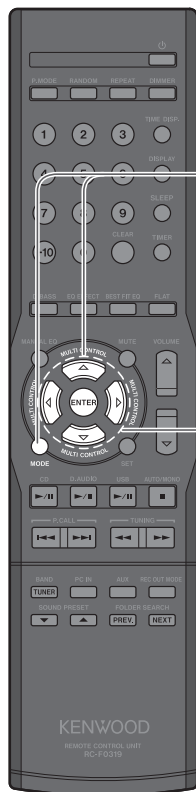
▼

[ENTER]キーで確定する

関連情報 ●CDを再生する→P.34～

スペクトラムアナライザのパターンを設定する（S.A.PATTERN）

スペクトラムアナライザ表示のパターンを 4 パターンから選べます。

●CDを再生して音を出しながら設定すると、パターンがわかります。

1 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

S.A.PATTERN

▼

[ENTER]キーを押す

2 パターンを選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

S.A.PATTERN1

パターン1：
下から上にのびる（通常）

▼

S.A.PATTERN2

パターン2：
上から下にのびる

▼

パターン3：
パターン1の上端のバー のみ表示

▼

パターン4：
パターン3が反転表示

▼

S.A.　OFF

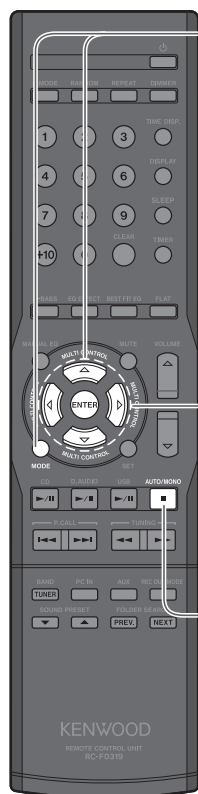
OFF

▼

[ENTER]キーで確定する

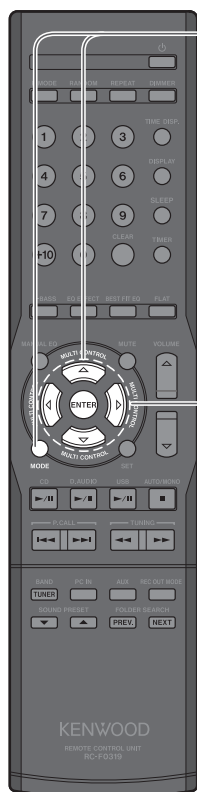
機器設定編

時刻設定

本機の時計を正しい時刻に合わせます。プログラムタイマーで再生や録音をする場合、時刻が正しく設定されていないと、正しい時間にプログラムを作動させることができません。

■電源がOFFの（スタンバイ状態）のとき時刻を表示させるには

AUTO/MONO ■ キーを押す。 ※5秒間表示されます。

オートパワーセーブ

A.P.S. とは Auto Power Save（オートパワーセーブ）機能の略です。電源がオンで CD、USB が停止したまま 30 分以上何も操作しないと、自動的に電源がオフになる機能です。

1 [MODE]キーを押す

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

[ENTER]キーを押す

2 「ON」または「OFF」を選ぶ

[MULTI CONTROL]キーで選ぶ

※「A.P.S.」が点滅が点灯に変わります。

[ENTER]キーで確定する

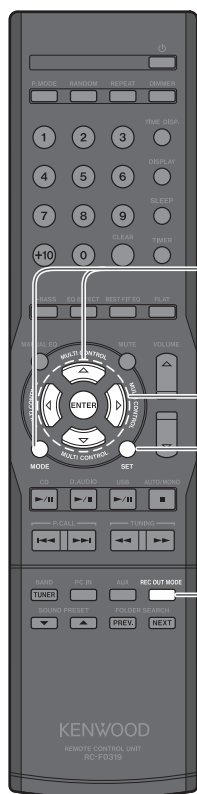
Point

※入力がPC（パソコン）、TUNER、D.AUDIO、またはAUXのときは、音量がゼロ（VOLUME 0）またはMUTEがオンのときに限り働きます。

機器設定編

録音レベルの調整

デジタルオーディオプレーヤーに録音した音が歪む、または小さい
と感じた場合は、出力レベルを調整して合わせることができます。

※ヘッドホンをしたまま「REC OUT MODE」に変更する
と、音が大きくなることがありますのでご注意ください。

※PHONES/REC OUT端子にケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーを接続する場合は、それぞれの機器に最適な録音レベルを選びます。

M1GB5、M512B5を接続した場合 ➡ 本機：HIGH
M1GB5
M512B5 ｝調整なし

M2GC7、M1GC7を接続した場合 ➡ 本機：HIGH
M2GC7
M1GC7 ｝Mid

保守編

エラーやトラブルが起きたときにご覧ください。
また、長くご愛用いただくための保管やお手入れ方法についても、ぜひご覧ください。

メッセージ表示一覧

ディスプレイ表示	意　味
ACCESS	本体前面のUSB端子に接続した機器のファイルの読み出し中。
CD NO DISC	CDが入っていない。 →CDを入れる。
CD ONLY	音源がCD以外のときにBest Fit EQキーを押した。 →音源をCDにしてから、Best Fit EQキーを押す。
CHECK DISC	●TOC[*1]情報を読むことができない。 →ディスクが汚れている。「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。（P.80参照） ●ディスクが正しく挿入されていない。 →ディスクを正しくトレイに置く。（P.23参照）
NO PGM	曲がプログラムされていない。 →聞きたい曲をプログラムする。（P.36参照） →プログラムモードを解除して通常再生する。（P.37参照）
NO TEXT	CD-TEXTディスクのテキスト情報がない。
PGM FULL	CDのプログラムで33曲目を選択しようとしている。 →プログラムできるのは32曲まで。
PGM MODE	プログラムモードのときにランダム再生しようとしている。 →プログラムモードを解除する。（P.37参照）
SettingError	Best Fit EQで、イコライザーカーブを設定できなかった。 →「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し（P.80参照）ディスクの汚れをふきとって、もう一度行う。
TEXT FULL	1536バイト以上のテキスト情報があるCD-TEXTのテキスト情報を表示しようとしている。 →表示できません。

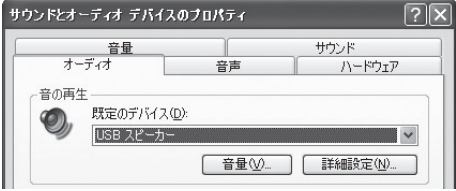
＊1：CDには音声信号以外にTOC（Table of Contents）という情報が記録されています。TOCとは本の目次に相当し、曲数や演奏時間、文字情報などのうち、書き直すことのできないものが入っています。

故障かな？と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

アンプ部・スピーカー部

症　状	処　置	参照ページ
音が出ない	●「接続のしかた」を参照し、正しく接続し直す。 ●音量を上げる。 ●ミュートを解除する。 ●ヘッドホンが差し込まれている場合はプラグを抜く。	12 22 22 14
タイマーインジケーターの表示が赤く点滅し、音が出ない	●使用を中止する。内部的な不具合が発生したことが考えられます。電源を切り、電源プラグを抜いて修理をご依頼ください。	――
ヘッドホンから音が出ない	●ヘッドホンプラグが正しく差し込まれているか確認する。 ●音量を上げる。	14 22
スピーカーの片側から音が出ない	●「接続のしかた」を参照し、正しく接続し直す。	12
スピーカーからの音が割れている（歪んでいる）	●スピーカーコードがショートしている。電源プラグをコンセントから抜き電源を切ってからショートを取り除く。 ●外部機器（AUX、D. AUDIO）の入力レベルを下げる。	―― 47、50
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している	●「時刻設定」を参照し、時刻を合わせる。	70
タイマーが作動しない	●「時刻設定」を参照し、時刻を合わせる。 ●タイマーの開始時刻と終了時刻を設定する。	70 65

チューナー部

症　状	処　置	参照ページ
放送局が受信できない	●アンテナを接続する。 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。	12 40 40
雑音が入る	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。	――
オートプリセット後、P.CALLキーを押しても受信できない	●もう一度オートプリセットする。 ●受信できる周波数の放送局をマニュアルプリセットする。	42 44

USB部

症　状	処　置	参照ページ
USBフラッシュメモリまたはUSBオーディオプレーヤーを接続しても音が出ない	●USBフラッシュメモリを正しく差し込む。 ●USBケーブルを正しく接続する。 ●USBオーディオプレーヤーの電源が入っているか確認する。	15 15 30

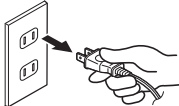
故障かな？と思ったら

PC部

症　状	処　置	参照ページ
本機が認識されない	●USBケーブルで本機とパソコンを正しく接続する。 ●USBハブを使って接続している場合は、ハブが正しく動作しているか確認する。または接続するポートを変える。	15
音が出ない または小さい	次の操作を行ってみてください。 ●対策1 ①パソコンの音楽再生ソフトを終了する。 ②本機の電源をオフにしてからオンにする。 ③パソコンの音楽再生ソフトを起動して再生する。 ●対策2 ①パソコンで[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[マルチメディア]を開き、「優先するデバイス」が「USBスピーカー」になっているか確認する。 ②「USBスピーカー」になっていないときは、プルダウンメニューの中から「USBスピーカー」を選ぶ。 サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ 音量　サウンド　オーディオ　音声　ハードウェア 音の再生 既定のデバイス(D): USB スピーカー 音量(V)...　詳細設定(N)... ●対策3 ①パソコンで[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[ボリュームコントロール]を開き、音量が最小になっていたり、「ミュート」にクリックマークがついていないかを確認する。 ②音量が最小になっているときは音量を上げ、「ミュート」にクリックマークがついているときは、マークをクリックしてクリックマークをはずす。	29
音が途切れる	●音声出力中、CPUに負担のかかる作業をしているときは、音が途切れることがあります。CPUに負担のかかる作業は控えてください。 ●音声出力中にほかのUSBケーブルの抜き差しをすると、音が途切れることがあります。音声の再生中に、ほかの機器のUSBケーブルを抜き差ししないでください。	―――
雑音が多い	●強い電磁波を発生するもの（テレビなど）の近くに本機が置かれていると、雑音が多くなることがあります。強い電磁波を発生するものから十分に離して設置してください。	―――

CD部

症　状	処　置	参照ページ
CDを入れても再生できない	●レーベル面を上にして、正しく入れる。 ●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。 ●「結露にご注意」を参照し、露を蒸発させる。	23 80 80
音声が出ない	●**[CD]**キーを押す。 ●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。	23 80
音とびがする	●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。	80

D.AUDIO IN端子に接続した機器

症　状	処　置	参照ページ
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーがリモコン/本体で操作できない	●別売の専用ケーブル PNC-150で接続する。 ●非対応モデルを接続している。	14 48
再生中に雑音が入る	●D.AUDIO IN端子に機器を接続して再生するのと同時に、USBケーブルを接続して充電している場合、USBケーブルを外す。	――

リモコン部

症　状	処　置	参照ページ
リモコンで操作できない	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。	19 19

故障かな？と思ったら

マイコンをリセットするには

症　状	処　置
マイコンが誤動作（操作できない、表示部の誤表示など）する	●電源がONのときの接続コードの抜き差しや、外部からの要因により、誤動作することがあります。 次の手順に従い、マイコンをリセットしてください。 ❶ 電源プラグをコンセントから抜きます。 ❷ 再度本体の電源キーを押しながら、電源プラグを差し込み直します。 本　体 ❸ マイコンをリセットすると右記のディスプレイが表示されます。 INITIALIZE ※CDのディスクが入ったままリセットすると自動的に排出されます。ディスクを取り出してからCDトレイを閉じてください。 ※リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、お買い上げ時の状態となります。ご了承ください。

用語集

用　語	意　味	ページ
CD-DA	音楽CDのこと。一般的に「CD」といえば、ほとんどの場合、CD-DAを指す。	24
CD-TEXT	ディスク名、アーティスト名、曲名等の文字情報が記録された音楽CDの呼称。	34
MP3	独Fraunhofer IISが開発した音声圧縮方式のひとつで、人間の聞き取りにくい部分のデータを間引くことによって高い圧縮率を得ることができ、音楽CD並みの音質を保ったまま約1/11(128kbps)に圧縮することができる。	25
USBハブ	複数のUSB機器を同時に接続するためのアダプター。	25
USBマスストレージクラス	パソコンにUSB機器を接続するための規格。またパソコンに接続したUSB機器が、パソコン側から外部記憶装置として認識されること。	15、25
VBR（可変ビットレート）	音楽の情報量に合わせて、ビットレートを変化させて割り当てる方式。	83
サンプリング周波数	アナログ信号からデジタル信号への変換を1秒間に何回行うかを示す数値。音楽CDの場合は44.1kHz。一般的にサンプリング周波数が高いほど高音質となる。	25
ビットレート	1秒間にどのくらいの情報量があるかを示す数値。ビットレートが高いほど高音質となる。	25

保管とお手入れ

本機の保管とお手入れ

■ 次のような場所に置かない

- 直射日光の当たる場所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 暖房器具の熱が直接当たる場所。

■ 結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴（露）が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋などでは、特に結露にご注意ください。

■ 汚れたら

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコール、接点復活剤などは変色、変形の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

CDディスクの保管とお手入れ

■ 保管するときは

長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

■ 汚れたら

- ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。
- レコードクリーナーやシンナー、ベンジン、アルコールでふかないでください。
- ディスクアクセサリー（スタビライザー、保護シート、保護リングなど）およびレンズクリーナーは使わないでください。

■ その他お守りしていただきたいこと

- 鉛筆やボールペンなどで字を書かないでください。
- シールやラベルがはがれたり、のりがはみ出しているCDは使わないでください。
- 紙やシール、ラベルを貼らないでください。

USB機器の保管とお手入れ

必ず各製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

保障とアフターサービス

よくお読みください

保証書（別途）

製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（お問い合わせ先は､「ケンウッド全国サービス網」P.82参照）

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で､お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

■ 保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

■ 出張修理／持込修理

「出張修理」､「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所
（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

■ 保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ 修理料金の仕組み

（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費､技術教育費､測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

ケンウッド全国サービス網

使いかたや製品に対するお問合せは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください） **2006年12月現在**

北海道

札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎(011) 743-7740

東北

仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和1F)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスセンター	〒020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎(019) 646-2311

関東・信越

さいたまサービスセンター	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2(JA 共済埼玉ビル1F)	☎(048) 647-6818
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 939-6242
新潟サービスセンター	〒950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	☎(025) 287-7736
目黒サービスセンター※	〒153-0042	目黒区青葉台3-17-9	☎(03) 3477-5411

中部・甲州

名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
静岡サービスセンター	〒420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
松本サービスセンター	〒390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎(0263) 26-7331
金沢サービスセンター	〒920-0036	金沢市元菊町21-87	☎(076) 265-5045

近畿・四国

大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスセンター	〒760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413

中国

広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210

九州

福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスセンター	〒890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスセンター	〒901-2101	浦添市西原4-36-17(株)物琉2F	☎(098) 874-9010

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内：
  午前10 時から午後6 時まで
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝日及び当社休日を除く）

※目黒サービスセンターは修理持込専用窓口となっております。
電話でのお問合せはカスタマーサポートセンターへの転送にて承ります。

カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンター
ナビダイヤル　☎ 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP 電話からのご利用は　☎ (045) 933-5133
FAX (045) 933-5553
〒 226-8525　横浜市緑区白山1-16-2

- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内：
  月曜～金曜　午前9 時30 分から午後6 時
  土曜　午前9 時30 分から午後12 時、午後1 時から午後5 時30 分
  （日曜、祝日及び当社休日を除く）

定 格

本体部（RD-NDL100）

[アンプ部]

実用最大出力……………… 13 W + 13 W（JEITA 8 Ω）
D-BASS (+10) ………… +8.0 dB (110 Hz、Vol. 20)
入力端子（感度／インピーダンス）
LINE (AUX)
…………………… 280 mV / 27 kΩ (入力レベル0時)
LINE (D. AUDIO)
…………………… 240 mV / 20 kΩ (入力レベル0時)
出力端子（レベル／インピーダンス）
REC OUT (D. AUDIO) ……900 mV / 10 Ω (HIGH)
………………………………… 650 mV / 10 Ω (MID)
………………………………… 450 mV / 10 Ω (LOW)
SUB WOOFER PREOUT ………… 1.9 V / 680 Ω

[チューナー部]

FMチューナー部
受信周波数範囲…………………… 76 MHz ～ 90 MHz
アンテナインピーダンス…………………… 75 Ω不平衡
AMチューナー部
受信周波数範囲……………… 531 kHz ～ 1,629 kHz

[USB部]

インターフェイス…………USB 2.0 (Full speed) USB 1.1互換
対応ファイルシステム………………………… FAT 16/32
再生フォーマット／形式
MP3　サンプリング周波数
……………… 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
ビットレート(CBR/VBR *) ……… 32~320 kbps
ID3タグ ……………………………………………非対応
最大フォルダ数……………………………………無制限
最大フォルダ階層数…………………………… 8階層
最大ファイル数…………………… 65534 (FAT 32時)
供給電流…………………………………… 最大500 mA

※VBRのオーディオデータは、上記のビットレートの範囲外になる場合があり、再生できないことがあります。

[CDプレーヤー部]

読み取り方式………………………… 非接触光学式読み取り
（半導体レーザー）
D/Aコンバーター ………………………………… 1 ビット
オーバーサンプリング………………… 8 fs (352.8 kHz)
周波数特性 (JEITA) ………………… 20 Hz ～ 20 kHz

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数…… AC 100 V、 50 Hz/60 Hz
定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） …… 43 W
待機時消費電力…………………………………0.2 W以下
最大外形寸法………………………………… 幅 180 mm
高さ 215 mm
奥行 326 mm
質量（重量）…………………………………4.3 kg(正味)

スピーカー部（LS-NDL200）

エンクロージャー……………………………… バスレフ方式
スピーカー構成
ウーファー……………………………70 mm コーン型
ツイーター……………………25 mm バランスドーム型
インピーダンス……………………………………………8 Ω
最大入力…………………………………………………… 20 W
最大外形寸法（スタンド含む）……………… 幅 140 mm
高さ 275 mm
奥行 140 mm
質量（重量）………………………………… 1.3 kg(1本)

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保守編

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

● 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
ナビダイヤル　0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP電話からは　045-933-5133
FAX　045-933-5553
住所　〒226-8525　神奈川県横浜市緑区白山1-16-2
受付時間　月曜〜金曜　9:30 〜 18:00
土曜　9:30 〜 12:00、13:00 〜 17:30
（日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）

● 修理などのアフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、サービスセンター、各営業所にご相談ください。